

平成28年度（平成27年度対象）

**教育に関する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価の報告書**

平成28年8月

音更町教育委員会

目 次

はじめに

1 点検及び評価の趣旨	1
2 点検及び評価の対象	1
3 点検及び評価の方法	1

I 点検及び評価の結果

1 教育委員会の活動状況

(1) 会議の状況	2
(2) 規則等の制定・改廃の状況	6
(3) 表彰の状況	6
(4) 研修会等への参加の状況	8
(5) 学校訪問の状況	8
(6) 町民への情報提供の状況	9
(7) 教育委員会の組織	10

2 重点的な評価

(1) 確かな学力の向上	11
(2) 健やかな体の育成	21
(3) 豊かな心の育成	22

3 教育行政推進における主要な施策の実施状況

(1) 文教対策	24
(2) 社会教育の振興	32
(3) 社会体育の振興	37

4 昨年度の学識経験者からの主な意見と対応状況 40 |

II 学識経験者の意見 44 |

はじめに

1 点検及び評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出することとなっています。

また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとなっています。

音更町教育委員会では、これまでも各種計画に基づき効果的な教育行政を推進してきましたが、法に基づく点検及び評価を行い、その結果を公表することで、町民の皆様々に教育に関する事務の管理及び執行の状況について説明するとともに、今後の施策・事業の展開等に活用し、より一層効果的な教育行政の推進を図ってまいります。

2 点検及び評価の対象

平成27年度の教育委員会の活動状況のほか、平成27年度教育行政推進の方針に位置づけられて実施した施策・事業等を点検及び評価の対象としています。

また、特に町民の方々の関心が高いと思われる「確かな学力の向上」「健やかな体の育成」「豊かな心の育成」について、現状や課題、今後の方向性等に関する点検・評価を行っております。

3 点検及び評価の方法

教育委員会が行った点検及び評価の客観性を確保するとともに、今後の取組に向けた活用を図るため、教育に関し学識経験を有する方から点検及び評価に関する意見や助言をいただきました。

学識経験者 阿部好恵氏（帯広大谷短期大学准教授）

利浪啓介氏（退職校長会北十勝会事務局長）

I 点検及び評価の結果

1 教育委員会の活動状況

(1) 会議の状況

教育委員会の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び音更町教育委員会会議規則に基づき、教育長と4人の教育委員会委員が教育行政に関する基本的な方針の決定や教育委員会規則の制定など、教育に関する様々な議題について審議します。

平成27年度は、下記のとおり会議を開催しておりますが、それぞれの会議において、事務局から付議案件の提案理由や説明を行った後、教育委員会委員の活発な質疑、審議を経て、いずれも決定・了承されています。

事務局では、教育委員会の会議の活性化と十分な審議を実施するため、各委員に議案・資料等の事前説明を行うなど、審議がより活発なものとなるよう配慮しております。

また、教育委員会会議の前に委員相互の意見交換をする場を設け（必要に応じ事務局も入り）、日常の情報交流を図るとともに、教育委員会会議において委員の意見を反映させるため、提案議案以外に意見を提案する場を設けております。

今後も、学校訪問などの活動を充実させながら、積極的に教育行政を推進していく必要があると考えております。

期 日	付 議 案 件
27. 4. 23 [15:00～16:10]	(報告) ・ 教育委員会事務報告 ・ 教育長職務代理者の指名について ・ 卒業式及び入学式の実施状況について (議案) ・ 音更町教育委員会に対する事務の委任について ・ 音更町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則案について ・ 音更町子どもの読書活動推進計画（第2期）について ・ 小規模特認校への転入学について ・ 音更町教育研究所所員の委嘱について ・ 音更町学校評議員の委嘱について ・ 音更町社会教育委員及び音更町公民館運営審議会委員の委嘱について ・ 音更町青少年対策地区指導員の委嘱について ・ 音更町図書館協議会運営委員会委員の委嘱について ・ 音更町スポーツ推進委員の委嘱について (協議案) ・ 教育委員の学校訪問について

<p>27. 5. 20 [14:10~16:45]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音更町附属機関設置条例の一部を改正する条例案について ・ 音更町就学指導委員会規則の一部を改正する規則案について ・ 平成27年度第12地区教科書採択地区調査委員会の委員の推薦について ・ 音更町奨学資金審議会委員の委嘱について ・ 音更町青少年対策委員の委嘱について <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成27年度補正予算(案)について ・ 教育委員の学校訪問について ・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
<p>27. 6. 26 [14:00~15:00]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 ・ 工事請負契約の締結について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音更町奨学資金支給者の決定について ・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する評価委員の選任について <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書について
<p>27. 7. 21 [14:00~15:30]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 ・ おとふけ「教育を考える日」記念フェスタについて ・ 平成27年度教科書展示会での意見について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音更町いじめ問題等対策委員会委員の委嘱について ・ 英語指導助手の採用について <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書について
<p>27. 8. 21 [12:05~12:10]</p>	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員人事の内申について

<p>27. 8. 28 [14:00~14:45]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年度から使用する小学校用及び中学校用教科用図書の採択について ・ 音更町教育支援委員会委員の委嘱について ・ 平成28年度公立学校校長採用候補者の推薦について ・ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書について <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成27年度補正予算(案)について
<p>27. 9. 25 [16:00~16:50]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 ・ 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年度北海道公立学校教頭昇任候補者の推薦について
<p>27. 10. 19 [11:00~11:50]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 ・ おとふけ「教育を考える日」記念フェスタの進捗状況について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員人事の内申について ・ 平成27年度音更町文化奨励賞等表彰者の決定について <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音更町放課後子ども教室について
<p>27. 11. 18 [7:30~8:30]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 ・ 教育長職務代理者の指名について ・ 道教委による全国学力・学習状況調査の結果公表について ・ サッカー場について ・ 生涯学習推進中期計画及び第七次社会教育中期計画の進捗状況について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成27年度全国学力・学習状況調査結果の分析について ・ 住民基本台帳カードの廃止及び個人番号カードの多目的利用の実施に伴う関係条例の整備に関する条例案について ・ 音更町図書館条例施行規則の一部を改正する規則案について ・ 教職員人事の内申について

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨時教諭の採用について (協議案) ・ 平成27年度補正予算(案)について
<p>27.12.24 [14:00~15:35]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 ・ おとふけ「教育を考える日」記念フェスタの開催結果について ・ 学校給食における異物混入について ・ 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育長の勤務時間に関する規則案について ・ 平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について ・ 平成28年度全国学力・学習状況調査の実施について <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年度教育委員会予算編成に伴う主要事業の概要について
<p>28.1.28 [14:00~15:00]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音更町いじめ防止基本方針(案)について ・ 道教委による全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果公表について ・ 音更町児童生徒文化・スポーツ賞選考委員の委嘱について ・ 小規模特認校への転入学について <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年度教育行政推進の方針(案)について
<p>28.2.24 [14:00~15:30]</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会事務報告 <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音更町子どもの読書活動推進計画(第2期)について ・ 平成27年度音更町スポーツ賞等該当者の決定について ・ 音更町立学校学区外・区域外就学許可要綱の一部を改正する要綱案について ・ 教職員人事の内申について <p>(協議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成27年度補正予算(案)について ・ 平成28年度教育委員会予算(案)及び主要事業について

28. 3. 24 [13:30~14:30]	(報告) ・ 教育委員会事務報告 ・ 中学校の卒業式の実施状況について ・ 平成27年度いじめに関する実態調査報告について ・ 音更町生涯学習推進中期計画（平成28年度～平成32年度）について (議案) ・ 音更町教育委員会行政組織規則等の一部を改正する規則について ・ 音更町教育委員会事務局処務規程及び音更町教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令について ・ 音更町第七次社会教育中期計画（平成28年度～平成32年度）について ・ 音更町子どもの読書活動推進計画（第2期）について ・ 音更町立学校職員の処分の内申について ・ 教職員人事の内申について ・ 音更町教育委員会事務局職員の人事について
----------------------------	---

(2) 規則等の制定・改廃の状況

平成27年度に制定・改廃された教育委員会の規則・訓令及び教育関係の条例は次のとおりです。

ア 規則

題 名	公布年月日	施行年月日
・ 音更町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則	27. 4. 23	27. 4. 23
・ 音更町就学指導委員会規則の一部を改正する規則	27. 6. 16	27. 6. 16
・ 音更町図書館条例施行規則の一部を改正する規則	27. 12. 24	28. 1. 1
・ 教育長の勤務時間に関する規則	27. 12. 30	28. 1. 1

(3) 表彰の状況

ア 音更町文化奨励賞等

[音更町の文化の高揚と発展に寄与した個人又は団体を表彰]

- ① 文化奨励賞：(科学・芸術・教育等を通じ、音更町の文化の進展に著しく貢献した個人又は団体を表彰)

氏 名 (年齢)	表 彰 事 由
個人 片野 祐子 (74歳)	昭和45年「泉会」の発足から現在までの長きにわたり代表を務める傍ら、大地展、文化祭において多数出品するなど華道文化の発展に精力的な活動を続けてきた。また、帯広大谷短期大学において講師を務めるなど音更町の芸術文化の発展に大きく貢献された。

個人	前川典子 (58歳)	昭和55年から現在までの長きにわたり「友芳会」の代表を務める傍ら、文化協会に加盟し、舞踊部会の活動促進及び振興に尽力してきた。また、平成25年4月からは文化協会副会長として広く音更町の芸術文化の向上・発展に大きく貢献された。
個人	大森洋臣 (46歳)	平成27年7月、第67回毎日書道展において公募の最高賞である「毎日賞」を受賞した。また、公民館講座「ペン字教室」の講師を4年にわたり務めるなど、音更町の文化・芸術活動に多角的に寄与された。
団体	初音会 代表 熊田 要司 昭和30年4月1日設立	会の設立以降、民謡技術の向上に切磋琢磨し、定期的に練習を行ってきた。また、長きにわたり地域の老人・福祉施設との交流会、ボランティア活動を実践しており、音更町の芸術文化の発展及び地域活動に大きく貢献された。

イ 音更町スポーツ賞等

〔音更町のスポーツの分野において優秀な成績を収めた者及びスポーツの振興に寄与した個人又は団体を表彰〕

① スポーツ賞（全国・全道規模の大会で優秀な成績・記録を収めた個人又は団体）

【個人】

氏名	年齢	所属	種目
角矢 優騎	18	帯広三条高等学校	アーチェリー
菅野 拓海	18	帯広三条高等学校	アーチェリー
菅野 博暉	17	帯広三条高等学校	アーチェリー
小高 英樹	13	音更中学校	硬式野球
小竹 琉湖	16	山形中央高等学校	スピードスケート
佐々木 すず	11	下音更小学校	レスリング
佐々木 成果	14	下音更中学校	スピードスケート
佐々木 菜花	18	帯広三条高等学校	スピードスケート
薩田 結華	17	帯広三条高等学校	スピードスケート
佐藤 史都	18	東海大学附属第四高等学校	バレーボール
早苗 純鈴	13	下音更中学校	水泳
下坂 明彦	18	帯広三条高等学校	スピードスケート
高玉 晴輝	12	音更小学校	硬式野球
田原 綾華	12	鈴蘭小学校	空手
野村 春菜	12	音更小学校	アイスホッケー
前田 雄麻	16	帯広三条高等学校	スピードスケート
水戸 咲良	12	緑陽台小学校	陸上

【団体】

団体名	所属	種目
下音更中学校スピードスケート部 2000mリレーチーム (5名)	下音更中学校	スピードスケート

下音更中学校陸上競技部女子 駅伝チーム (8名)	下音更中学校	陸上
-----------------------------	--------	----

② スポーツ奨励賞 (全国・全道規模の大会で上位入賞、十勝大会で優秀な成績)

【個人】

氏 名	年齢	所 属	種 目
窪田 圭佑	16	音更高等学校	テニス
小池 猛	17	音更高等学校	陸上
蜂屋 勇貴	17	音更高等学校	テニス

【団体】

団 体 名	所 属	種 目
音更高等学校男子テニス部 (9名)	音更高等学校	テニス

③ スポーツ功労賞 (本町におけるスポーツの普及振興に貢献のあった個人又は団体)

【個人】

氏 名	年齢	所 属	種 目
坂本 勝明	71	音更町水泳協会	水泳
横田 裕美	78	音更町ミニバレー協会	ミニバレー

(4) 研修会等への参加の状況

教育委員会では、各種研修会に参加し、他市町村教育委員会との情報交換や、研修に努めているほか、教育行政に関する調査・研究を行っています。

平成27年度は、北海道市町村教育委員研修会に参加し、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正による教育委員会制度改革について理解を深めています。また、総合教育会議の在り方や教育大綱について、最新の情報を得ています。

年月日	場 所	研 修 会 等	参加者
27.7.8 ～9	札幌市	第51回北海道市町村教育委員研修会 札幌開成中等教育学校視察	5名 (事務局1名 を含む)
27.11.13	帯広市	十勝管内市町村教育委員会教育委員研修会	5名

(5) 学校訪問の状況

教育委員会では、教育委員全員と事務局職員の合わせて8名で町内全小中学校を訪問し、それぞれの学校の取組について実情把握に努めています。(1校当たり1時間30分前後)

校長から学校経営の重点及び懸案事項の説明を受けた後、授業参観を行い、子どもたちの学びの様子を見学しています。その後、校長・教頭との意見交換を行い、学校運営・教育環境等様々な点について現状と課題を把握し、より良い教育環境の整備に努めております。

また、学校訪問の際には、一部の学校において学校給食の試食も行っております。

平成27年度は、「道徳教育の推進」を重点テーマに訪問したほか、各学校におけるいじめや不登校の状況、校区内での不審者情報とPTAの活動状況等について意見交換を行うとともに、教職員と教育委員の顔合わせとして、職員室において教育長からの挨拶と各教育委員の自己紹介等を行い、交流を図っております。

訪問年月日	訪問学校名
27.6.26	緑陽台小学校、下音更中学校
27.7.3	駒場小学校、昭和小学校
27.7.15	下士幌小学校
27.7.21	緑南中学校、音更小学校
27.8.21	東士狩小学校、南中音更小学校
27.8.25	木野東小学校、鈴蘭小学校、共栄中学校
27.8.28	柳町小学校、下音更小学校
27.9.1	西中音更小学校、東士幌小学校、駒場中学校
27.10.19	音更中学校

(各種学校行事等)

小中学校の入学式・卒業式に教育長をはじめ、各委員が出席するほか、運動会・体育祭への訪問等を行っています。

(6) 町民への情報提供の状況

教育委員会では、教育に関する制度や手続、行事等の周知を図るために、様々な情報を提供しています。

今後も、ホームページや町広報紙等を活用し、情報提供の方法を工夫しながら、より一層わかりやすく様々な情報を提供していく必要があると考えています。

ア 広報紙の活用

毎月発行している広報「おとふけ」で教育に関する各種情報の提供に努めました。

(主な掲載情報)

- ・「生涯学習のまど」〇〇JCオープンカレッジ等の各種講座の紹介
- ・「図書館通信」新着・おすすめ図書を紹介、図書館行事のお知らせ
- ・その他(小規模特認校の特集紹介等)

イ ホームページの活用

ホームページの管理・運営を通じて、教育委員会の活動を町民にお知らせしています。

(主な掲載情報)

- ・音更町の教育目標
- ・小中学校ホームページ
- ・学校教育関係(区域外就学、就学援助等)
- ・社会教育関係(施設の紹介・空き状況/予約、生涯学習等)
- ・図書館(蔵書検索)
- ・教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書
- ・定例の教育委員会会議の開催案内と会議結果(要旨)
- ・社会教育委員協議会等の審議会の会議結果

(7) 教育委員会の組織

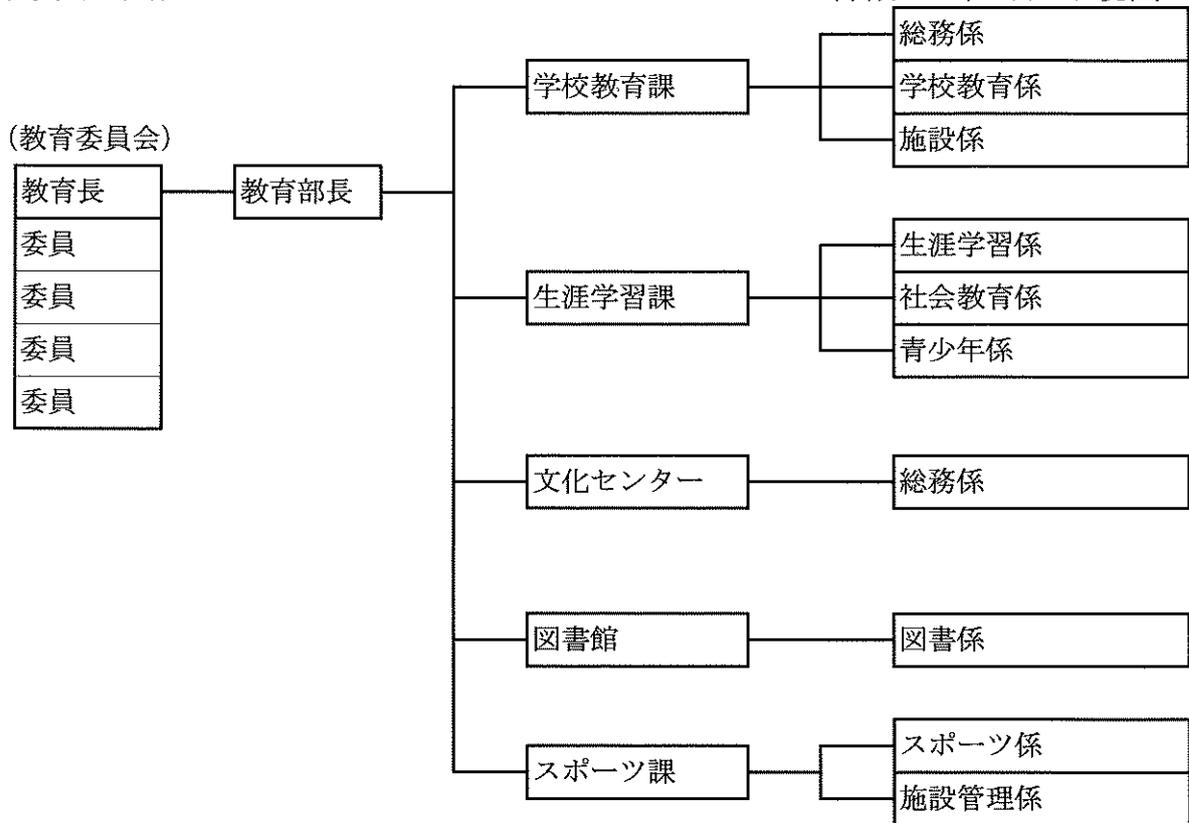
教育委員会

(平成28年4月1日現在)

職名	氏名	教育委員の任期	
教育長	宮原 達史	平成27年 4月 1日	～ 平成30年 3月31日
委員(教育長職務代理者)	田中 義博	平成16年11月 2日	～ 平成28年11月 1日
委員	古屋 泰江	平成12年11月 2日	～ 平成28年11月 1日
委員	石川 秀朗	平成22年 1月20日	～ 平成30年 1月19日
委員	種川 健	平成27年11月 5日	～ 平成31年11月 4日

教育委員会の組織

(平成28年4月1日現在)



2 重点的な評価

(1) 確かな学力の向上

音更町教育委員会では、教育行政推進の方針において、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身につけて、それらを活用できる学力を育むことが重要であると捉えています。その取組を進める上で、子どもの学力の傾向を把握して課題を捉えるために、平成27年度も全国学力・学習状況調査に参加しました。平成27年度は、国語、算数・数学のほか理科についても悉皆調査を行っております。さらに、児童・生徒質問紙についてのクロス集計も行い、その分析結果を活用しています。

① 児童生徒の学力の現状と課題

【小学校】

<総評>

国語A・理科は、全国とほぼ同じであったが、国語B・算数A・算数Bの正答率が低く、中でも算数に大きな課題が見られた。

<領域・観点・問題形式>

- 国語Bは、全ての領域において「記述式問題」の正答率が低く、その差がそのまま全体の差となって表れた。
- 算数Aでは、全ての領域において全国を下回った。特に「式と計算」領域、その中でも「技能」に大きな課題が見られた。
- 算数Bでは、全ての領域において全国・全道を下回った。特に「数量関係」領域に課題が見られた。
- 短答式問題、記述式問題の正答率が低く、全ての記述式問題における「無解答率」は、全国に比べて大変高い結果となった。

【中学校】

<総評>

全ての教科において全道を上回り、また、全国と比較しても、ほぼ同じ又はそれ以上の結果となった。

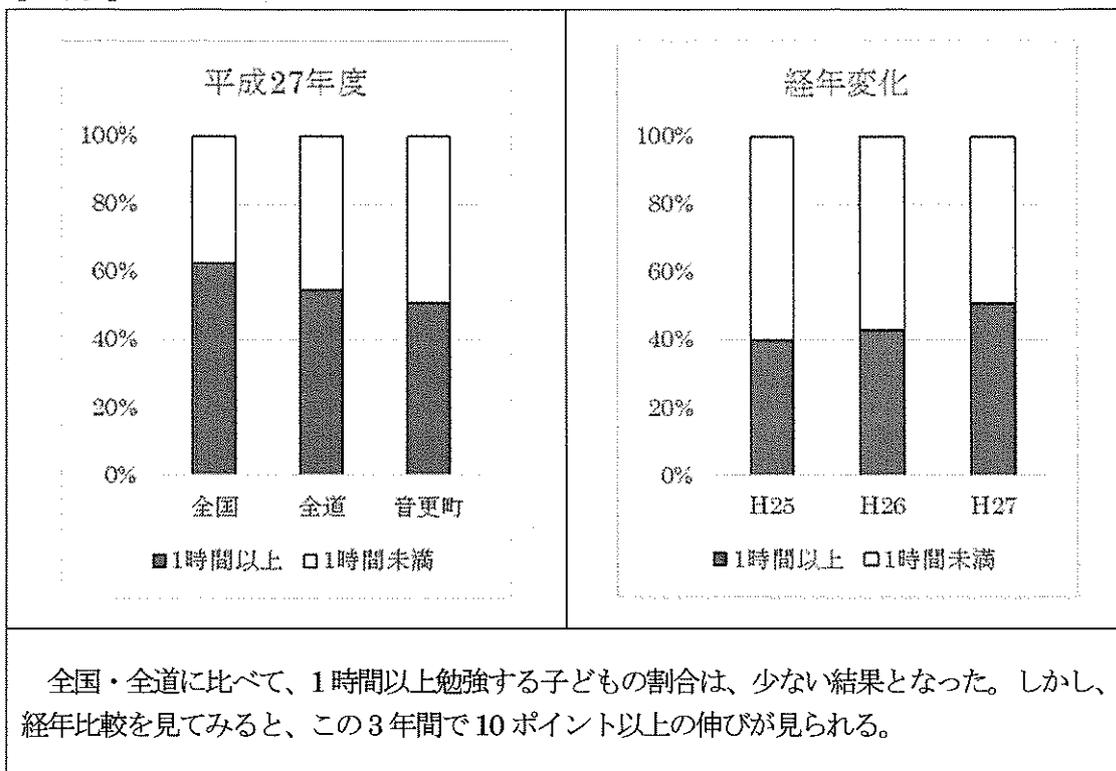
<領域・観点・問題形式>

- 国語A・国語B・算数A・理科の全ての領域で、全道・全国を上回った。
- 算数Bは全道を上回り、全国ともほぼ同じ結果となったが、強いて言えば、「関数」領域の「技能」にわずかな課題が見られた。
- 選択式問題、短答式問題、記述式問題の全てで高い正答率が見られた。しかし、詳細を見ると、記述式問題は15問中12問において、全国よりも「無解答率」が高かった。

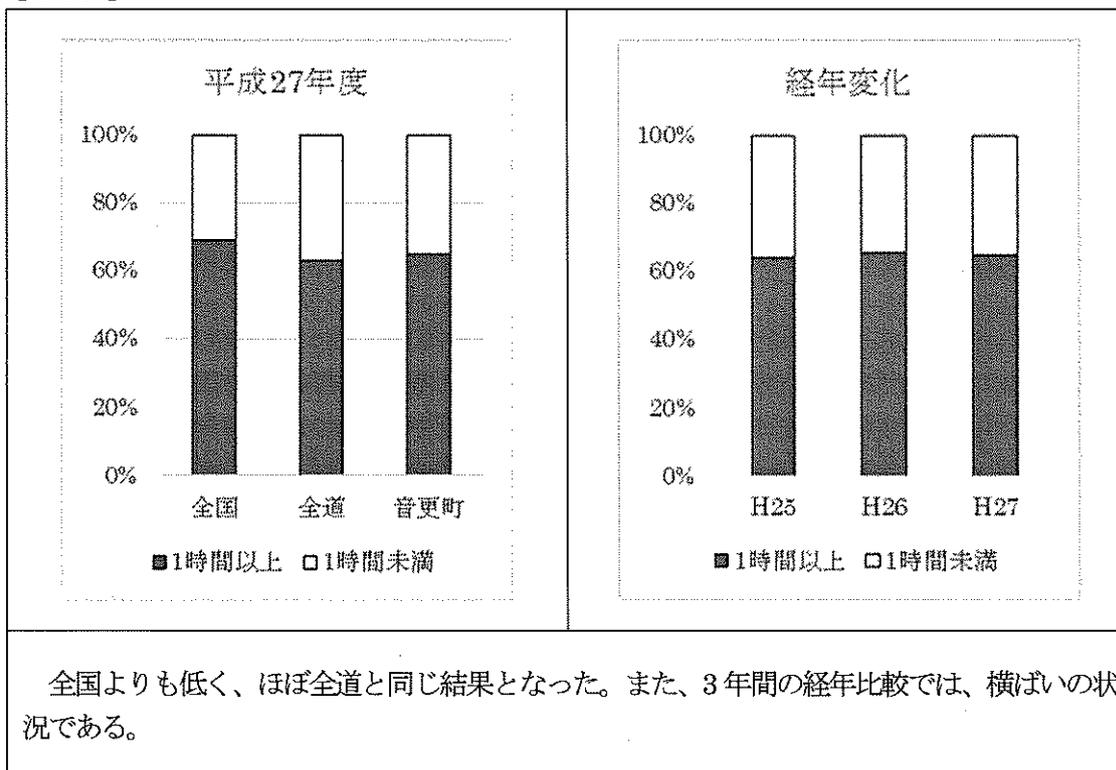
<児童・生徒質問紙>

1. 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

【小学校】

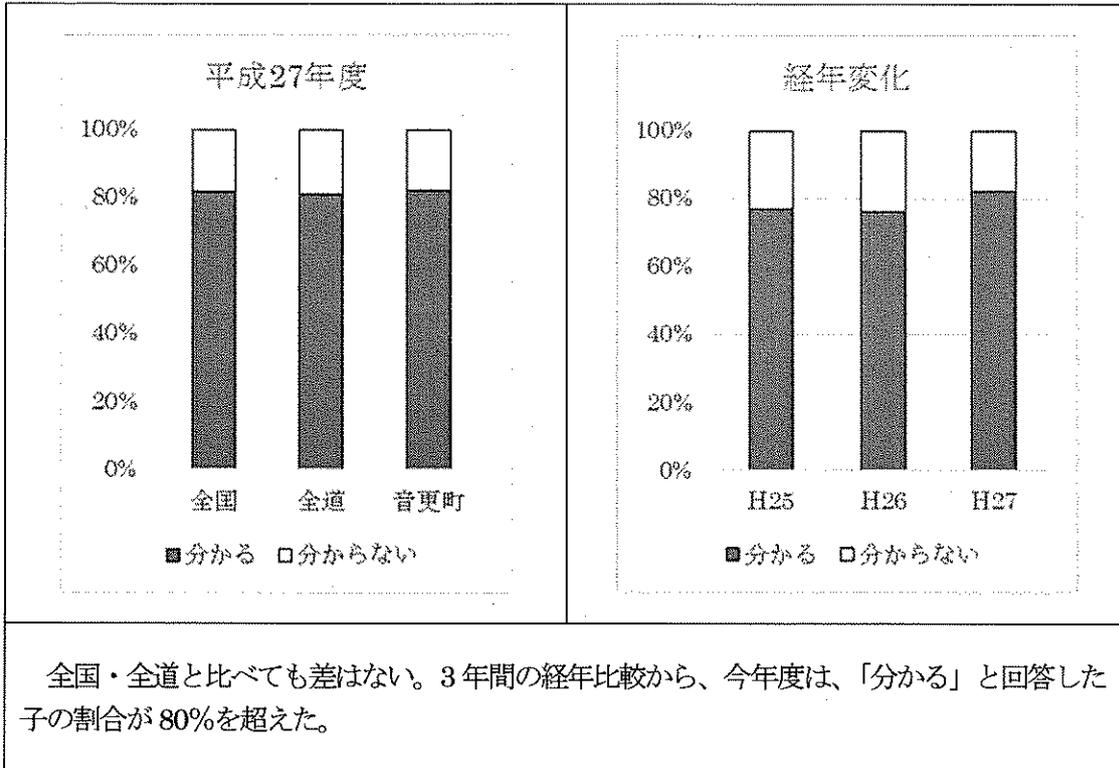


【中学校】

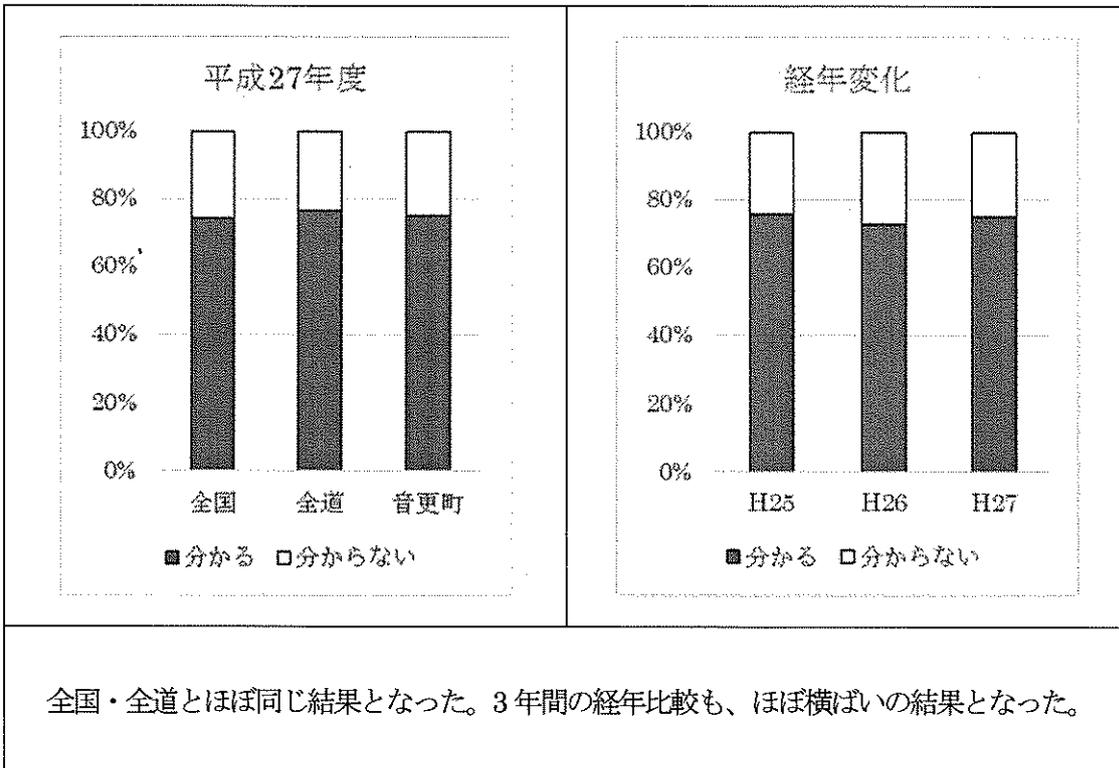


2. 国語の授業の内容は、よく分かりますか。

【小学校】

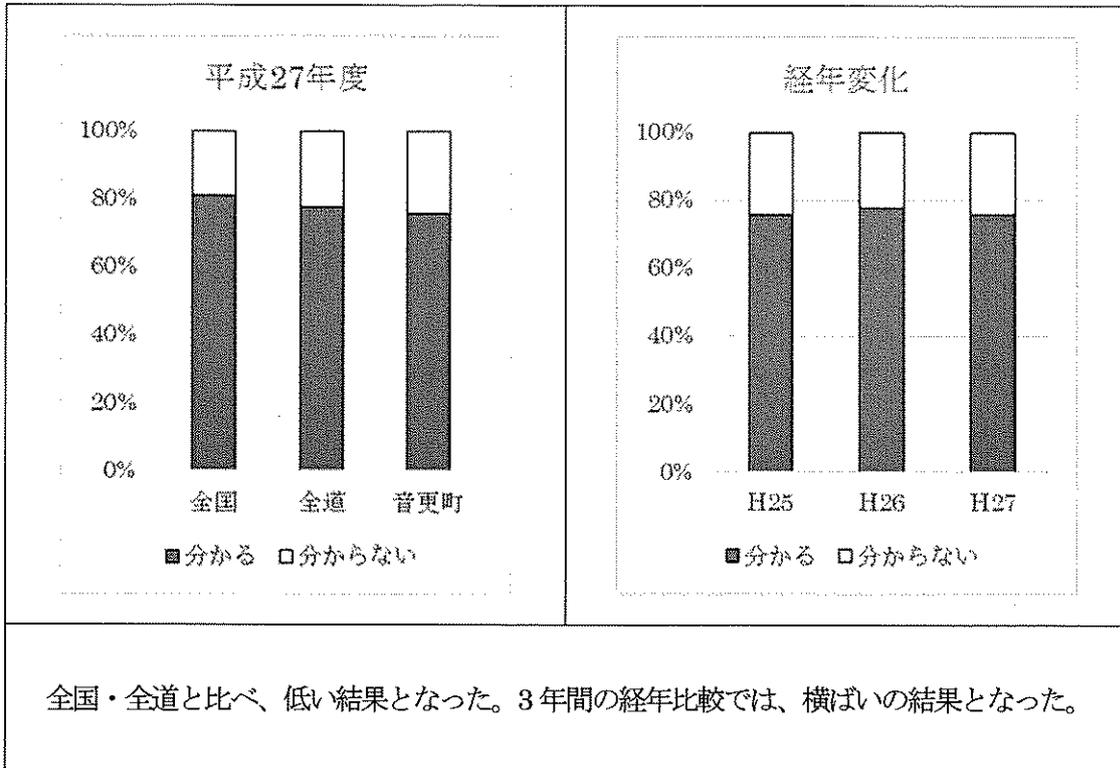


【中学校】

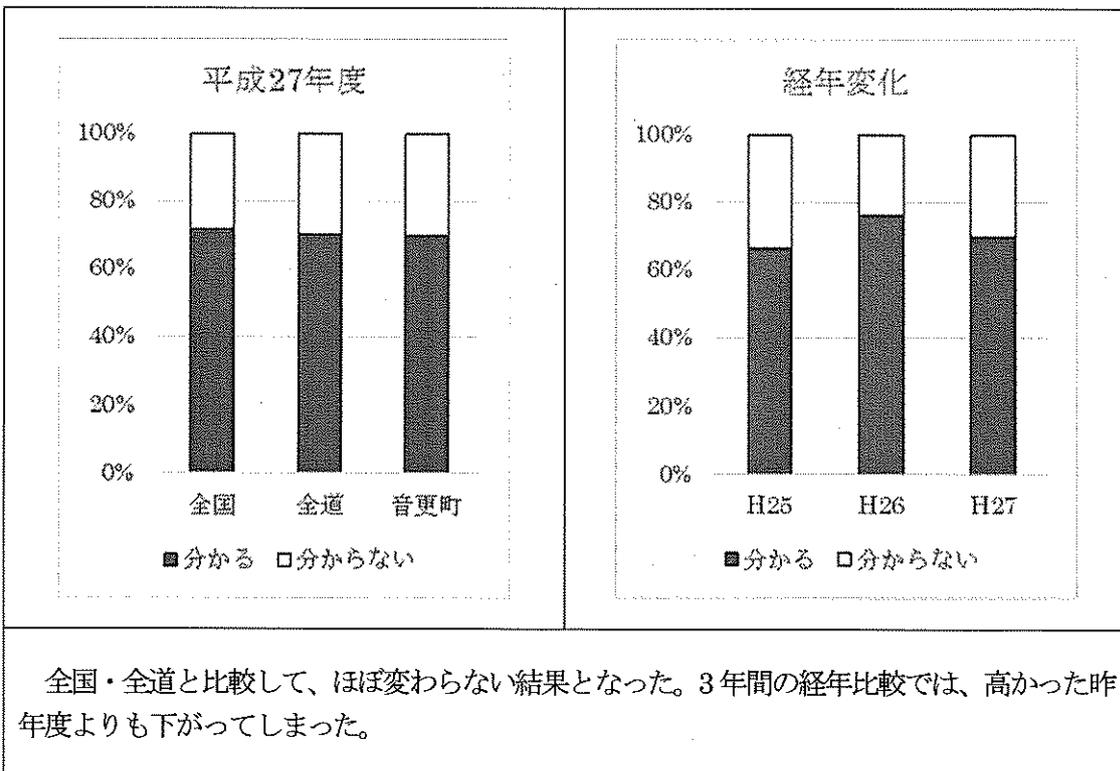


3. 算数・数学の授業の内容は、よく分かりますか。

【小学校】

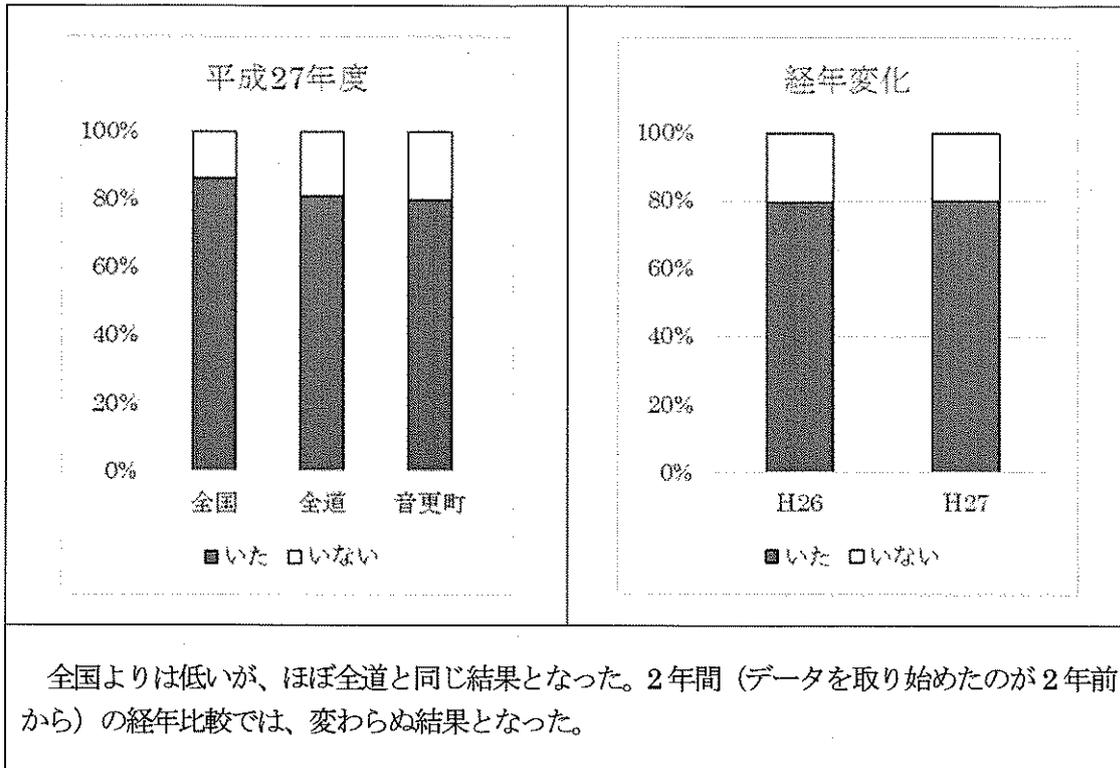


【中学校】

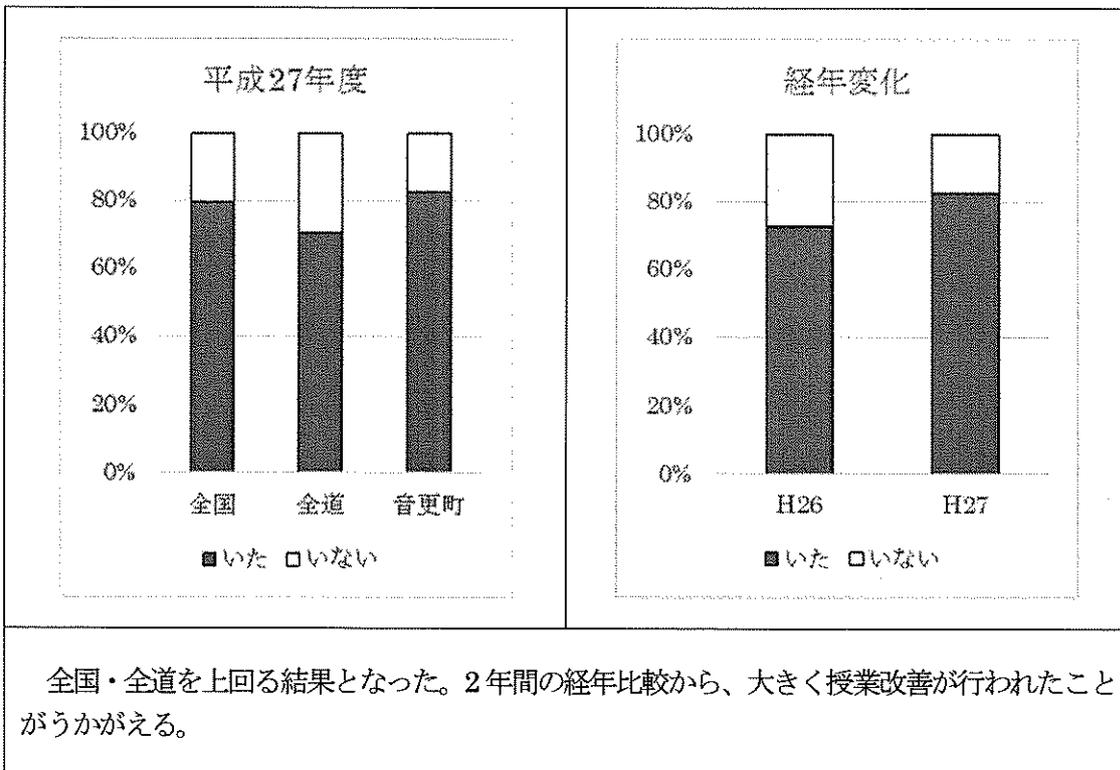


4. 昨年度までに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。

【小学校】

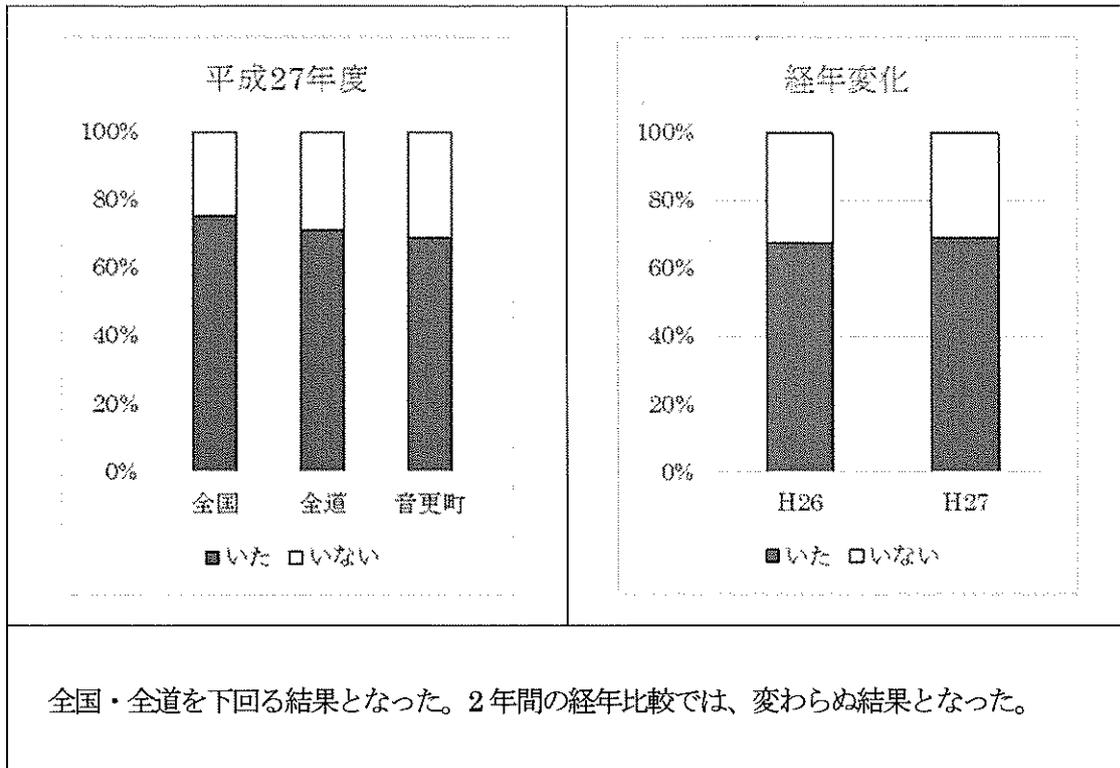


【中学校】

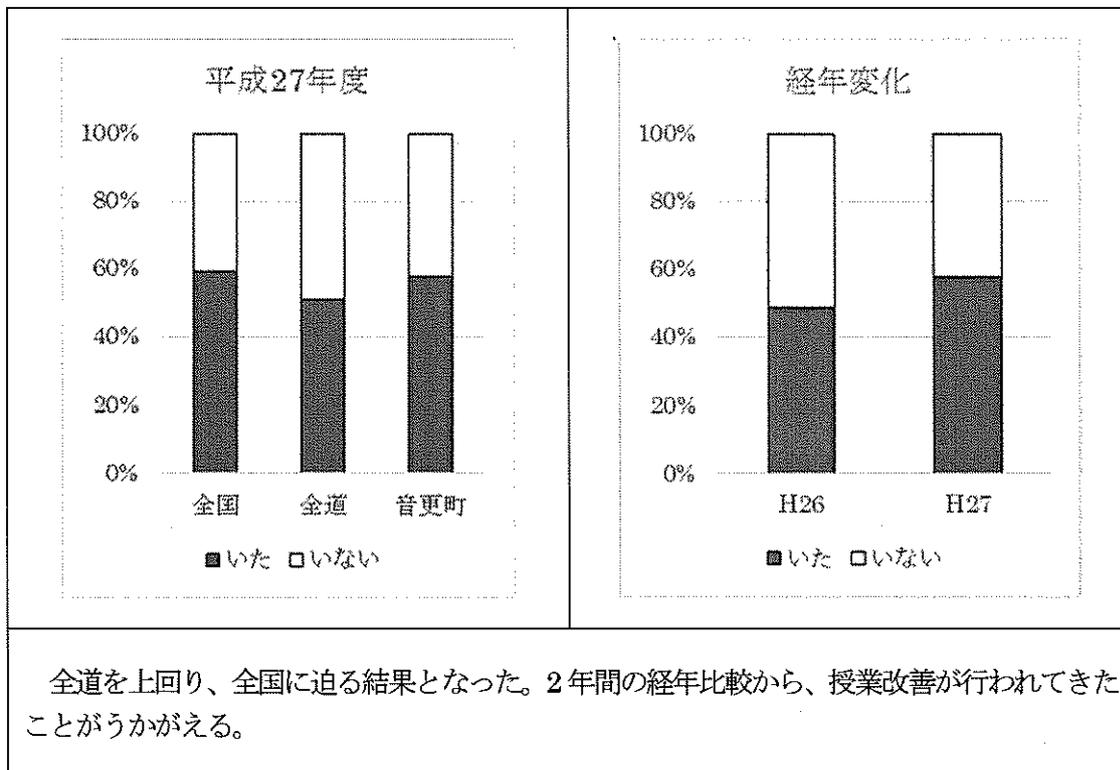


5. 昨年度までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

【小学校】

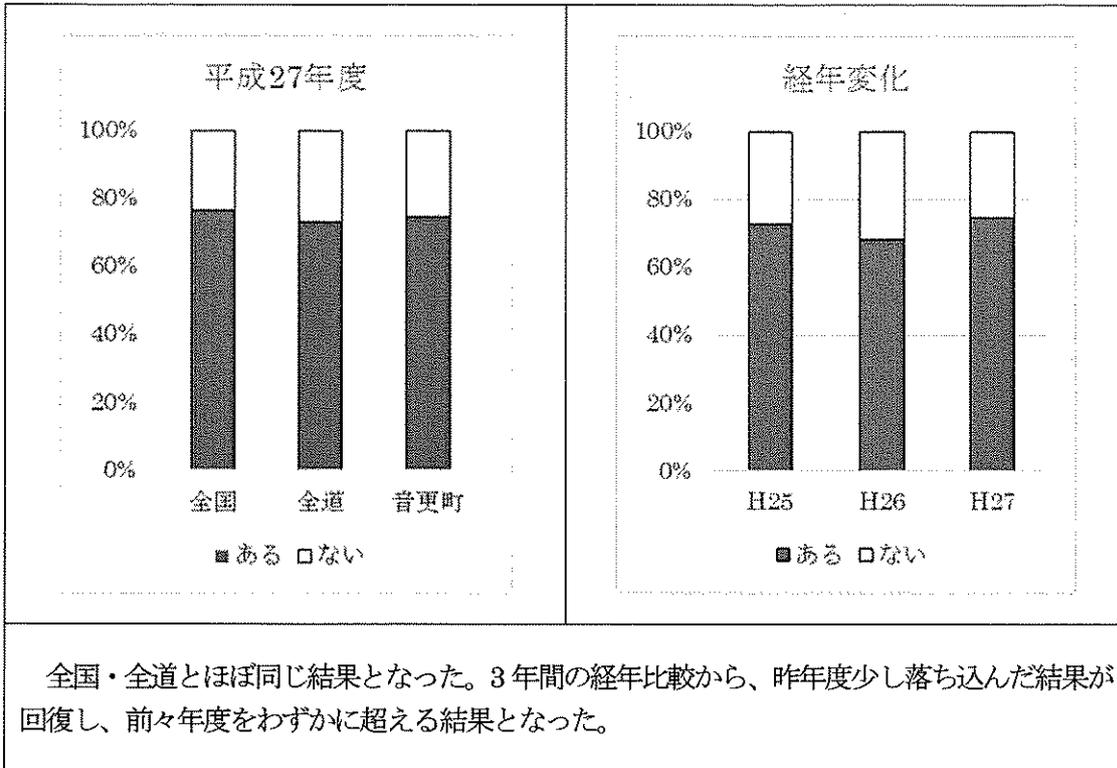


【中学校】

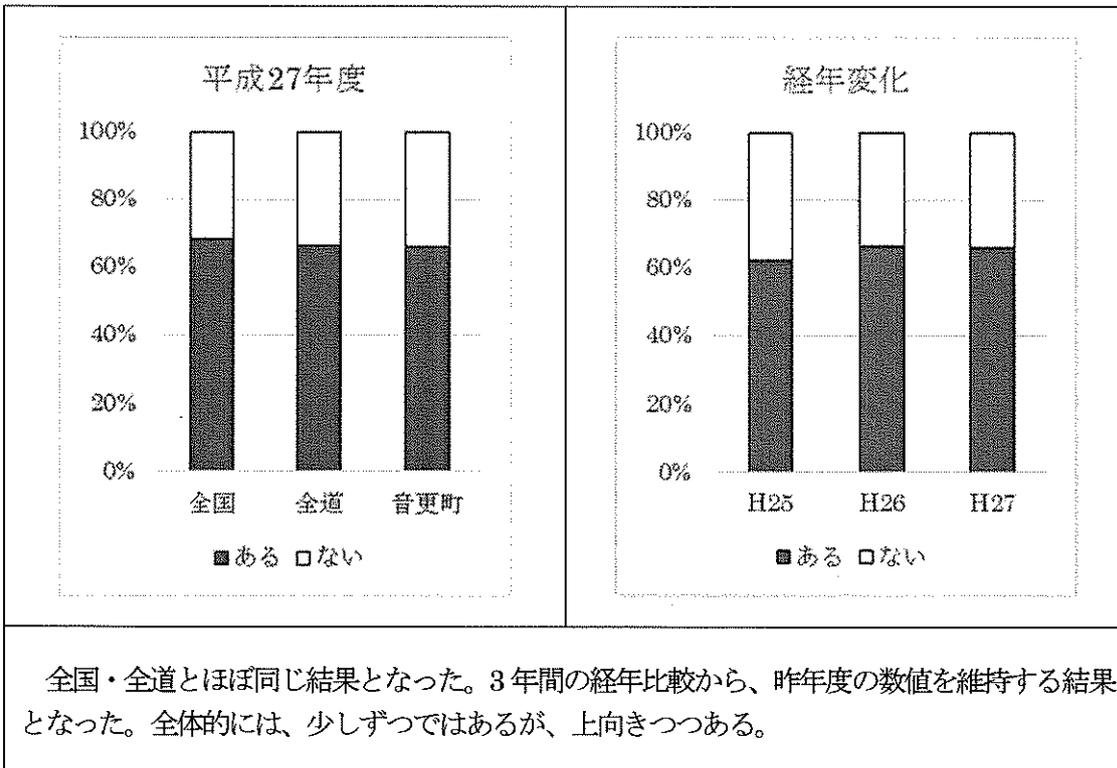


6. 自分には、よいところがあると思いますか。

【小学校】

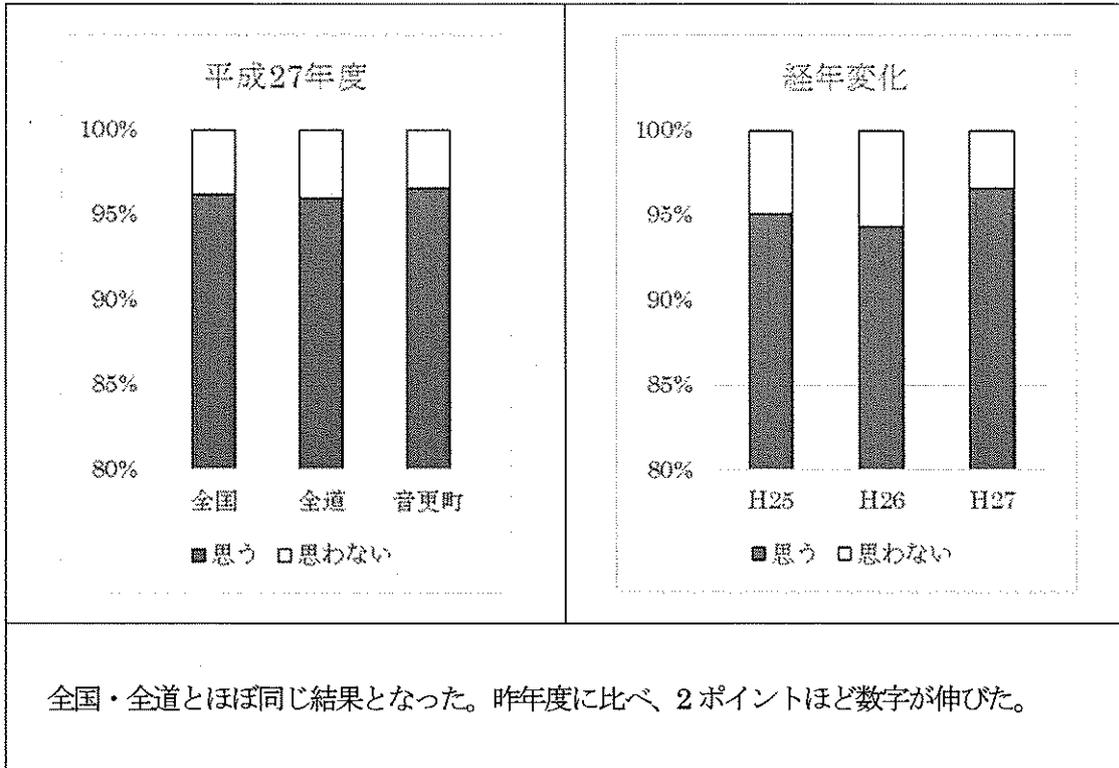


【中学校】

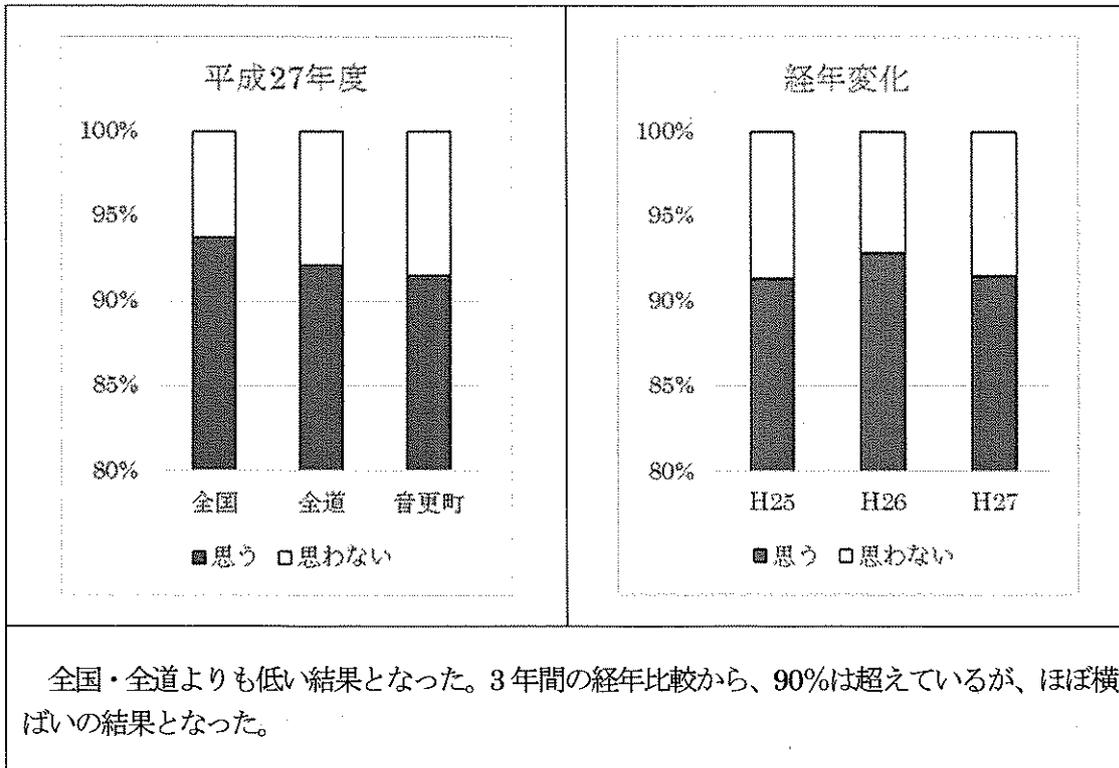


7. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

【小学校】

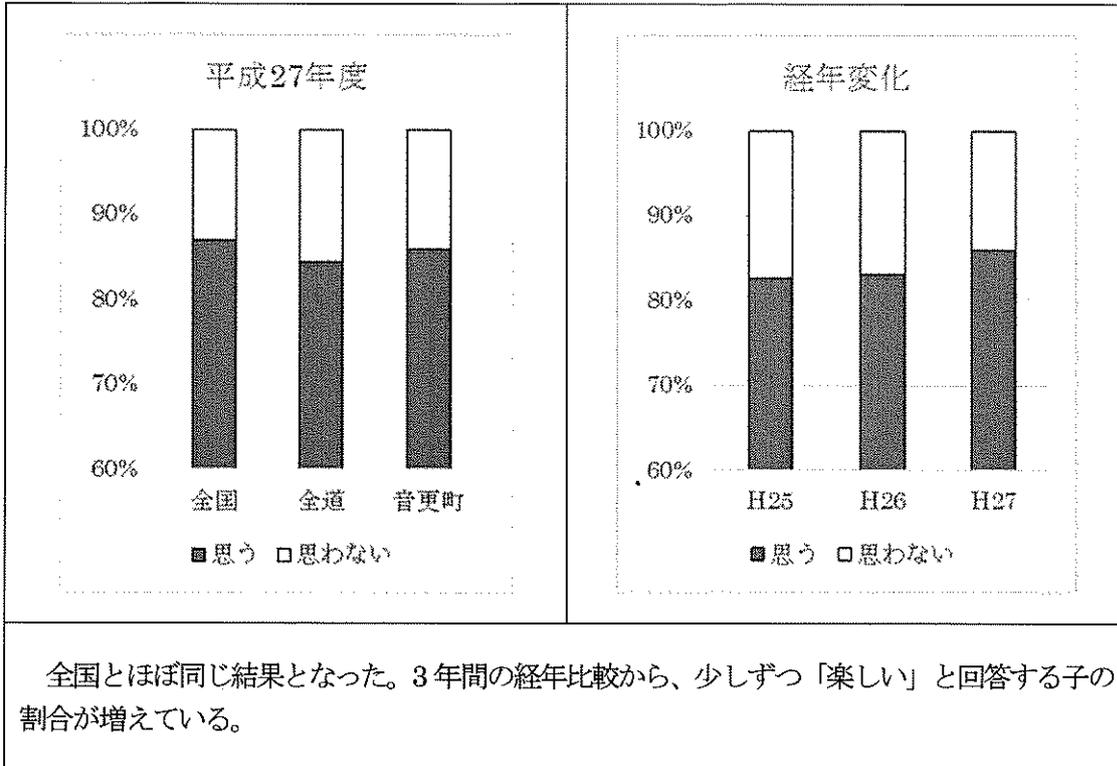


【中学校】

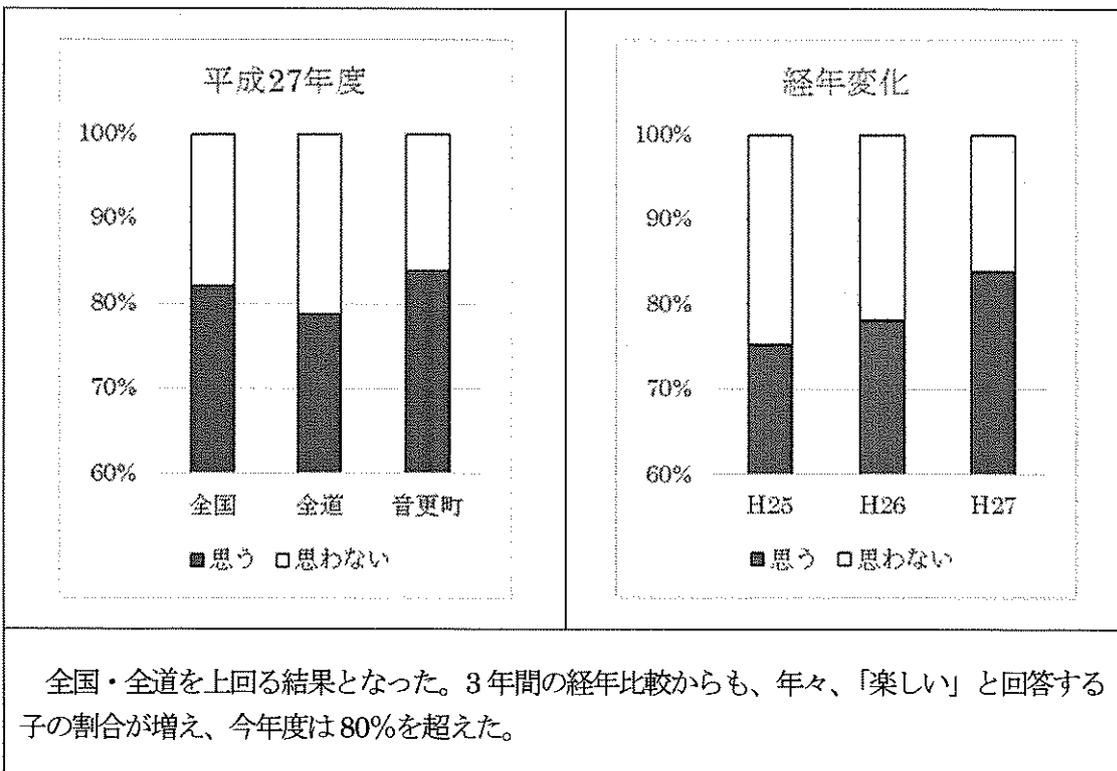


8. 学校に行くのが、楽しいと思いますか。

【小学校】



【中学校】



【クロス集計分析】

- 「読書は好きですか」との問いに対して、小・中学生ともに「好き」と答えた者の正答率が、「好きではない」と答えた者の正答率を国語・算数・数学と同様に上回っていることから、この3教科において相関関係が認められる。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」との問いに対して、小・中学生ともに全ての教科で、「している」と答えた者の正答率が最も高く、「全くしていない」と答えた者の正答率を大きく上回っている。
- 「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」との問いに対して、1時間以内（全くしないを含む）と答えた児童生徒が多く、多くの教科で最も正答率が高かった。
- 「自分にはよいところがある」等、自尊感情が高い児童生徒ほど正答率が高いという傾向が読み取れる。

② 学力向上のための取組

◆教育委員会の主な取組

1. 全国学力・学習状況調査の分析と検証を行い、「学力の傾向と改善のポイント」としてまとめ、学習指導の改善や学習意欲の向上に資する基礎資料を提示
2. 特別支援教育の推進のため、特別支援教育学習支援員は、平成26年度から1名増員し、平成27年度は30名、複式教育学習支援員は平成25年度から2人を配置
3. 退職校長会と連携し、長期休業中（夏季・冬季）に「熟年先生から学ぼう講座」を実施
4. 教育相談や各種指導助言業務、学校と教育委員会の連携のため、教育推進員2名を配置
5. 指導方法工夫改善事業、少人数学級実践研究事業（小2・中1）等を活用し、教員の加配等による学習環境の向上を実施
6. 教職員の資質の向上を図るため、教職員研修（校内研修、道内研修、実践指定校事業）への補助と研修の充実
7. 「家庭学習のすすめ」、「家庭学習の手引き」を作成し、平成27年度は全児童生徒及び家庭に配布
8. 学級文庫を小学校6校に配置し、夏・冬休みに本の入替を実施、また、移動文庫として小学校7校に向き、毎月本の入替と低学年を対象とした読み聞かせを実施

◆学校の主な取組

1. 全国学力・学習状況調査やCRT（標準学力検査）の分析結果に基づく学校改善プランの作成と組織的な取組の推進
2. 分かる授業（課題提示とまとめの時間の確保）を目指す授業改善
3. 特別に配慮を要する児童生徒等に対する補充的な学習サポートや習熟度別指導の充実
4. 加配教員や学習支援員等による学習指導の充実
5. 「家庭学習のすすめ」や「家庭学習の手引き」を活用した学習習慣の確立
6. 小・中の円滑な接続による学びの連続性の確保

◆家庭や地域との連携

1. 保護者及び地域住民に対する学習の機会及び情報の提供
2. 生活習慣の改善として、早寝・早起き・朝ごはんの定着と、帰宅後の生活習慣の改善
3. リズムのある規則正しい生活ができるようPTA等と連携した啓発活動

(2) 健やかな体の育成

体力とは、人間の発達・成長を支え、体を動かす原動力であると同時に、健康を維持する上でも必要なものです。また、体力は知力や意欲・気力といった精神面の充実にも大きく関わっており、体力は「生きる力」の重要な要素の一つとなります。

① 体力向上のための取組

◆教育委員会の主な取組

1. 体力・運動能力の向上、運動習慣の改善に向けた教材・教具の充実等、学校への支援
2. 全国・体力運動能力、運動習慣等調査（小学校5年生、中学校2年生を対象とした悉皆調査）の分析結果を、体力向上の基礎資料として提示
3. 社会体育の振興
4. 体力づくり、健康づくりの振興（スポーツライフ、各種スポーツ教室、各種スポーツ大会の開催）
5. スポーツ指導者、リーダーの育成
6. スポーツの奨励及び顕彰（スポーツ大会参加補助、スポーツ賞等表彰）
7. 町内スポーツ施設の整備充実
8. 体育専科教員の加配による体育授業の充実
9. 地産地消と食育の推進のため、おとぶけ給食などを実施

◆学校の主な取組

1. 「年間指導計画」に基づく学校全体の体力づくりの推進
2. 体育的行事を通じた体力づくりの充実
3. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査や新体力テストの結果を活用した組織的な体力向上の取組
4. 体育（保健体育）の授業改善による基礎体力の向上と課題克服に向けた取組の充実
5. 少年団活動や部活動の加入の奨励と運動習慣の確立
6. 「年間指導計画」に沿った食に関する指導の充実（栄養教諭の活用）

◆家庭との連携による体力づくりの推進

1. 早寝・早起き・朝ごはんの定着と、帰宅後の生活習慣の改善に努め、リズムのある規則正しい生活ができるようPTA等と連携した啓発活動
2. 運動習慣の大切さに対する意識を高め、自ら運動への関心・意欲を高める工夫
3. 食育の推進（1日3回の規則正しい食事、食品のバランス、おやつ・間食等の教育）

(3) 豊かな心の育成

いじめや不登校、ネットトラブルなどの問題行動等は依然として相当数に上っており、教育上の大きな課題となっています。

頻発する児童生徒の問題行動等への対応に向けて、家庭や地域、学校、教育委員会などが連携した取組の充実が望まれています。

① いじめ・不登校の現状と課題

<いじめ>

国は、「いじめ問題」は社会全体に関する国民全体の課題であると認識し、社会総がかりで対策を進めるため、平成25年に「いじめ防止対策推進法」を制定し、平成26年には北海道においても、「北海道いじめの防止等に関する条例」に基づいた「北海道いじめ防止基本方針」が策定されました。

また、平成27年には、全ての子どもが明るく元気に学び、健やかに成長していくことを願い、「音更町いじめ防止基本方針」を策定し、いじめの防止のための基本的な考え方と対策、重大事態への対処等を規定しました。

平成27年度に実施した、いじめに関するアンケート調査結果では、「4月以降にいじめられたことがある」と答えた小学生が274件、中学生では24件となっており、「いじめは今でも続いている」と答えた小学生の事例が88件、中学生の事例が10件ありました。そのうち、教育相談により解消した事例は96件で、残りの小学生2件のうち1件については今年度になって解消しておりますが、もう1件につきましては、継続案件として取組を行っております。また、調査とは別に、前年度から引き続いたいじめが原因による不登校の事例もありました。

また、小中学生ともに「いじめはどんな理由があっても許されない」と約84%が回答しており、平成26年度より増加傾向にあります。より一層確実に「いじめは絶対に許されない」ことをねばり強く定着させる指導が大切です。

<不登校>

平成27年度における不登校の状況は小学校8名、中学校53名の合計61名となっており、中学校においては平成26年度より増加しています。

また、教室外登校のうち、中学校2年生の場合は適応指導教室（ふれあい教室）への通級が多く、中学校3年生の場合は校内の別室での学習が多くなっています。そのうち、適応指導教室（ふれあい教室）への通級者は小学生0名、中学生15名の合計15名となっており、前年度より通級者が増加しています。

学校は、欠席が連続する児童生徒への早期の対応を行なうこととともに、学校及び関係機関が不登校児童生徒と保護者へのサポートなどを行うことが必要であると考えます。

② いじめ・不登校未然防止の取組

いじめは「どの子どもにも、どの学校でも起こりうる」との意識を持ち、組織的・計画的に取組を進めていくことが大切です。

また、不登校については、子ども一人一人の実態をきめ細かく把握し、家庭や学校、関係機関が連携して取組を進めていくことが重要です。

◆教育委員会の取組

1. 「音更町いじめ防止基本方針」に基づく、いじめ・不登校の防止等の取組
2. いじめ・不登校の未然防止や根絶を図るため、調査や心理検査等を実施
3. 学校に対する支援や相談体制の充実（青少年の悩み相談電話、教育推進員、心の教室相談員等）
4. 携帯電話やスマートフォンなどのインターネットを通じて行われるいじめの早期発見を図るため、PTA関係機関と連携し、家庭におけるルールづくりの啓発
5. 適応指導教室（ふれあい教室）による不登校対策
6. 「音更町いじめ問題等対策委員会」による状況の把握と、指導事例集の作成及びいじめ防止啓発等の推進

◆学校の主な取組

1. 「いじめ防止基本方針」に基づく、いじめ・不登校の未然防止、早期発見・早期解消の取組
2. いじめ・不登校の未然防止や早期発見のため、定期的にアンケートや心理検査を実施
3. 教育相談体制の充実と教育相談の実施
4. 「道徳」などにおいて、共感的な関係を深め、体験的な活動を充実
5. ネットトラブルから児童生徒を守る情報モラル教育の充実

◆家庭や地域との連携

1. 自尊感情や他人を思いやる心の醸成
2. 家庭だけで悩まず、学校や教育委員会などとの連携
3. 社会教育の充実（地域で子どもを育てる気運）
4. 携帯電話やスマートフォンなどの家庭におけるルールづくり

3 教育行政推進における主要な施策の実施状況

項 目	成 果	教育委員会の点検・評価												
		主 要 な 策	策											
文 1. 幼稚園就園奨励	私立幼稚園就園奨励補助を次のとおり実施した。 補助対象人数 402人 補助額 49,521,410円	私立幼稚園に就園している園児の保護者の所得状況に応じて経費の一部を補助することにより、保護者負担が軽減され、幼児教育の振興が図られている。 平成26年度と比較して補助対象人数は35人減少し、補助額は約490万円減少した。 幼児教育の段階的無償化が予定されているため、制度改正の動向に注意する必要がある。 平成28年度から保健福祉部に所管替えをした。												
2. 教 職 員 研 修	教職員の資質の向上を図るため、次のとおり研修を行った。 対象教職員 363人 2,580,735円	教職員の素養、知識、技術向上のために学校内で行う研修と、道内研修参加者にその費用を交付した。 平成21年度から、教職員研修の更なる充実を図るべく、学校内での総意工夫した研修を奨励する「校内研修実践指定校事業」を実施し、校内研修の充実が図られている。(6校で実施)												
3. 教 職 員 健 康 対 策	教職員の健康診断を次のとおり実施した。 受診人数 347人 4,695,300円 〔胸部X線、胃検査、血圧検査、尿検査、血液検査〕 心電図検査、聴力検査、身体総合検査	教職員の健康診断を帯広徳州会病院に委託して実施した。 1日当たりの受け入れ人数に制限があるため(1日5人程度)、長期間に渡って実施している。長期休業期間中に多くの教職員が受診できよう日程を調整し、継続して実施していく。												
4. 教育の日推進事業	音更町の教育の充実と発展を図るため、次のとおり実施した。 事業費566,441円 記念フェスタの参加者約500人	おとふけ「教育を考える日」の理念や趣旨、具体的な取組等を紹介することで、町民の教育への関心を高め、本町教育の充実と発展を図るために、実行委員会に交付金を交付して実施した。 教育に関する取組を紹介することで、関心を高める機会となるため、今後も継続していきたい。												
5. 教材教具の整備	小中学校の教材教具を次のとおり整備した。 (単位 円) <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>学 校 数</th> <th>整 備 額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小 学 校</td> <td>13</td> <td>11,755,737</td> </tr> <tr> <td>中 学 校</td> <td>5</td> <td>3,436,057</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>18</td> <td>15,191,794</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	学 校 数	整 備 額	小 学 校	13	11,755,737	中 学 校	5	3,436,057	計	18	15,191,794	新設の普通学級や特別支援学級に必要な教材教具を、学校要望を整理した上で整備し、教育環境の充実を図っている。 吹奏楽の楽器は、年次計画で各中学校に整備している。 また、平成27年度からICT環境の整備のため、小学校の全学級に実物投影機を年次計画で整備している。平成27年度は市街地校7校の6年生の学級に14台を整備した。 今後とも計画的に教材教具を整備していく必要がある。
区 分	学 校 数	整 備 額												
小 学 校	13	11,755,737												
中 学 校	5	3,436,057												
計	18	15,191,794												

項 目	成 果		教育委員会の点検・評価																																																
	主要な施策	果																																																	
6. 総合的な学習の時間の時間 支援事業	総合的な学習の時間として、創意工夫を生かした特色ある学校づくりの推進を図った。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">(単位 円)</th> </tr> <tr> <th>区 分</th> <th>学校数</th> <th>交 付 額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小 学 校</td> <td>13</td> <td>1,512,000</td> </tr> <tr> <td>中 学 校</td> <td>5</td> <td>837,000</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>18</td> <td>2,349,000</td> </tr> </tbody> </table>	(単位 円)			区 分	学校数	交 付 額	小 学 校	13	1,512,000	中 学 校	5	837,000	計	18	2,349,000	総合的な学習の時間における教育活動において、創意工夫による特色ある学校づくりに資するため、小中学校にその経費を交付している。 今後とも、国際理解・情報・環境・福祉・健康教育等の総合的な教育活動の推進のために必要である。																																	
(単位 円)																																																			
区 分	学校数	交 付 額																																																	
小 学 校	13	1,512,000																																																	
中 学 校	5	837,000																																																	
計	18	2,349,000																																																	
7. 就 学 援 助	就学困難な児童生徒に対し、次のとおり就学援助費を支給した。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">(単位 人、円)</th> </tr> <tr> <th>区 分</th> <th>支給人数</th> <th>支 給 額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学 用 品 費</td> <td>839</td> <td>15,765,005</td> </tr> <tr> <td>体 育 実 技 用 具 費</td> <td>265</td> <td>3,071,350</td> </tr> <tr> <td>入 学 準 備 金</td> <td>185</td> <td>4,088,790</td> </tr> <tr> <td>修 学 旅 行 費</td> <td>212</td> <td>9,036,569</td> </tr> <tr> <td>通 学 費</td> <td>11</td> <td>410,287</td> </tr> <tr> <td>P T A 会 費</td> <td>675</td> <td>2,394,210</td> </tr> <tr> <td>生 徒 会 費</td> <td>325</td> <td>156,820</td> </tr> <tr> <td>ク ラ ブ 活 動 費</td> <td>254</td> <td>3,871,756</td> </tr> <tr> <td>医 療 費</td> <td>496</td> <td>1,451,982</td> </tr> <tr> <td>給 食 費</td> <td>838</td> <td>39,184,799</td> </tr> <tr> <td>食物アレルギー管理指導費</td> <td>1</td> <td>2,160</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>854</td> <td>79,433,728</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>児童生徒数</td> <td>4,403人</td> </tr> <tr> <td>認定者数</td> <td>869人</td> </tr> <tr> <td>認定率</td> <td>19.7%</td> </tr> </tbody> </table>	(単位 人、円)			区 分	支給人数	支 給 額	学 用 品 費	839	15,765,005	体 育 実 技 用 具 費	265	3,071,350	入 学 準 備 金	185	4,088,790	修 学 旅 行 費	212	9,036,569	通 学 費	11	410,287	P T A 会 費	675	2,394,210	生 徒 会 費	325	156,820	ク ラ ブ 活 動 費	254	3,871,756	医 療 費	496	1,451,982	給 食 費	838	39,184,799	食物アレルギー管理指導費	1	2,160	計	854	79,433,728	児童生徒数	4,403人	認定者数	869人	認定率	19.7%	就学困難な児童生徒に対し、就学援助をすることにより、保護者負担の軽減を図っている。平成27年度から、食物アレルギー管理指導費を支給項目に追加し、診断書手数料を助成している。 対象者は平成24年度から減少傾向となっており、平成27年度は前年度に比べ0.7ポイント減少、支給額については約250万円減額となった。今後も保護者負担の軽減のため、継続していくことが必要である。
(単位 人、円)																																																			
区 分	支給人数	支 給 額																																																	
学 用 品 費	839	15,765,005																																																	
体 育 実 技 用 具 費	265	3,071,350																																																	
入 学 準 備 金	185	4,088,790																																																	
修 学 旅 行 費	212	9,036,569																																																	
通 学 費	11	410,287																																																	
P T A 会 費	675	2,394,210																																																	
生 徒 会 費	325	156,820																																																	
ク ラ ブ 活 動 費	254	3,871,756																																																	
医 療 費	496	1,451,982																																																	
給 食 費	838	39,184,799																																																	
食物アレルギー管理指導費	1	2,160																																																	
計	854	79,433,728																																																	
児童生徒数	4,403人																																																		
認定者数	869人																																																		
認定率	19.7%																																																		
8. 奨 学 資 金	高校在学者で家庭の経済的な理由により就学困難な者に対し、奨学資金を支給した。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">(単位 人、円)</th> </tr> <tr> <th>区 分</th> <th>支給人数</th> <th>奨 学 資 金 支 給 総 額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通年(公立高校)</td> <td>77</td> <td>月額 6,500 5,947,500</td> </tr> <tr> <td>通年(私立高校)</td> <td>34</td> <td>月額 10,000 4,020,000</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>111</td> <td>9,967,500</td> </tr> </tbody> </table>	(単位 人、円)			区 分	支給人数	奨 学 資 金 支 給 総 額	通年(公立高校)	77	月額 6,500 5,947,500	通年(私立高校)	34	月額 10,000 4,020,000	計	111	9,967,500	高校在学者であって、経済的な理由によって就学困難な高校生に奨学資金を支給している。 平成21年度から支給対象者を増員し、支給単価を公立高校を月当たり6千5百円、私立高校を月当たり1万円を限度に実施している。 なお、平成27年度の審議会で支給対象となった111人のうち、1人が6月から生活保護世帯となったため19,500円の戻入が発生した。																																	
(単位 人、円)																																																			
区 分	支給人数	奨 学 資 金 支 給 総 額																																																	
通年(公立高校)	77	月額 6,500 5,947,500																																																	
通年(私立高校)	34	月額 10,000 4,020,000																																																	
計	111	9,967,500																																																	

項 目	成 果		教育委員会の点検・評価
	主要な施策	(単位 円)	
9. 教育施設の整備	教育施設の整備を次のとおり実施した。		(学校施設の耐震化推進) 平成26年度に行った学校施設非構造部材耐震改修設計を基に、平成27年度は、全小中学校(小学校13校、中学校5校)の天井材やバスケットボール等非構造部材について、落下防止対策工事を実施した。 本町においては、平成25年度に校舎及び屋内運動場における構造体の耐震化率100%を達成しているが、平成27年度は非構造部材の耐震改修工事も完了し、学校施設の安全性を更に向上させることができた。
	工事名等	工事費等	(老朽化した学校の大規模改修) 老朽化が深刻な木野東小学校校舎について、普通教室の内装改修等を実施した。これまでも、空調改修やトイレ改修及び、給食室の内装改修等を行ってきたが、今後も計画的な改修や設備等の更新を行い、建物の保全及び延命を図っていく。
	音更小学校ほか1校屋内運動場非構造部材耐震改修工事	11,988,000	(既存施設の改修及び保全) 平成26年度に引き続き、防火シャッター作動時の挟み込み事故を防止するための防火シャッター改修事業及び給食室ドライフロア一化事業を実施したほか、老朽化した建物の外壁塗装や屋根改修、学校水泳プールの改修等を行った。また、学校施設の暖房設備が更新時期を迎えているため、改修に向けて実施設計を行った。 今後も安全性と機能性を確保するため、定期的に点検を実施するとともに、計画的な施設の更新及び改修を進める。
	駒場小学校ほか2校屋内運動場非構造部材耐震改修工事	15,804,720	
	下音更小学校屋内運動場非構造部材耐震改修工事	16,254,000	
	下土幌小学校屋内運動場ほか非構造部材耐震改修工事	17,442,000	
	西中音更小学校屋内運動場非構造部材耐震改修工事	16,740,000	
	東土狩小学校ほか2校屋内運動場非構造部材耐震改修工事	12,506,400	
	東土幌小学校ほか1校屋内運動場非構造部材耐震改修工事	8,586,000	
	緑南中学校屋内運動場非構造部材耐震改修工事	9,590,400	
	音更中学校屋内運動場ほか非構造部材耐震改修工事	9,374,400	
	下音更中学校ほか1校屋内運動場非構造部材耐震改修工事	29,527,200	
	駒場中学校屋内運動場ほか非構造部材耐震改修工事	11,782,800	
	非構造部材耐震改修工事監理業務 その1	1,544,400	
	非構造部材耐震改修工事監理業務 その2	1,296,000	
	旧豊田小学校暖房設備改修工事	939,600	
	緑場台小学校ダムウェーター改修工事	1,522,800	
下音更中学校温水ボイラー制御盤交換修繕	258,660		
緑南中学校地下重油タンク液面指示計交換工事	299,160		

項 目	成		果		教育委員会の点検・評価
	主要な施策				
下音更小学校トランス交換工事	トランス交換工事	1,080,000	三相トランス交換 1台		
柳町小学校特別支援教室増設工事	特別支援教室増設工事	550,800	特別支援教室増設内部改修 一式		
鈴蘭小学校窓手摺補強工事	窓手摺補強工事	507,600	既設窓手摺補強 18か所		
東土幌小学校機械室ほか屋根改修工事	機械室ほか屋根改修工事	2,073,600	機械室ほか屋根改修 一式		
下音更中学校校舎屋根修繕工事	校舎屋根修繕工事	550,000	校舎屋根修繕 一式		
木野東小学校ほか網戸整備事業	網戸整備事業	4,536,000	木野東小、緑南中網戸整備 一式		
鈴蘭小学校水泳プール上屋シート更新工事	水泳プール上屋シート更新工事	4,644,000	水泳プール上屋シート更新 一式		
鈴蘭小学校水泳プール水槽塗装工事	水泳プール水槽塗装工事	4,968,000	水泳プール水槽塗装 一式		
木野東小学校校舎内部改修建築主体工事	校舎内部改修建築主体工事	81,032,400	普通教室内部改修 14教室		
木野東小学校校舎内部改修電気設備工事	校舎内部改修電気設備工事	8,208,000	電灯設備、コンセント設備、自動火災報知設備ほか		
木野東小学校校舎内部改修工事監理業務	校舎内部改修工事監理業務	1,998,000	工事監理・指導監督		
音更小学校防火シャッター改修工事	防火シャッター改修工事	5,670,000	機械式危害防止装置設置 8か所		
南中音更小学校水泳プールシート更新工事	水泳プールシート更新工事	1,281,960	水泳プール水槽シート更新 一式		
各小学校遊具再整備工事	遊具再整備工事	907,200	東土狩小学校、昭和小学校遊具再整備 一式		
音更中学校第3駐車場整備工事	駐車場整備工事	11,664,000	駐車場工、地下排水工ほか		
駒場中学校給食室改修工事	給食室改修工事	9,504,000	給食室内部改修、設備改修 一式		
駒場中学校校舎外壁塗装工事	校舎外壁塗装工事	24,510,600	校舎外壁塗装改修、外部コーキング打替え 一式		
下音更中学校ほか保健室シャワーユニット設置工事	保健室シャワーユニット設置工事	1,868,400	下音更中学校、緑南中学校シャワーユニット設置 各1台		
学校施設煙突用断熱材アースベスト含有調査業務	学校施設煙突用断熱材アースベスト含有調査業務	2,094,120	学校施設煙突用断熱材アースベスト含有調査 一式		

項	目	策		果		教育委員会の点検・評価
		主要	な	成	果	
		柳町小学校	樹木伐採委託業務	1,455,840	樹木伐採・伐根 21本	
		緑陽台小学校	樹木伐採委託業務	298,544	樹木伐採一式 14本、樹木芯止・剪定一式	
		緑南中学校	樹木剪定等委託業務	1,620,000	樹木伐採・剪定 一式	
		各小中学校	風倒木処理等委託業務	793,382	風倒木処理 一式	
		駒場中学校	ほか暖房設備改修設計業務	1,620,000	暖房設備改修設計(下音更小、鈴蘭小、駒場中、共栄中)	
		緑陽台小学校	ほか外壁塗装改修設計業務	619,920	外壁塗装改修設計(緑陽台小学校、東土狩小屋内運動場)	
			計	339,512,906		
音更町公立学校等施設整備計画						
事業期間 平成27年度～平成27年度						
学	校	名	整備区分	事業名	建物区分	構造区分
音更	小	学校	①	防災機能強化	屋	S
下音更	小	学校	①	防災機能強化	屋	R
駒場	小	学校	①	防災機能強化	屋	S
下土幌	小	学校	①	防災機能強化	校	R
下土幌	小	学校	①	防災機能強化	屋	S
西中音更	小	学校	①	防災機能強化	屋	R
東土狩	小	学校	①	防災機能強化	屋	S
東土幌	小	学校	①	防災機能強化	屋	S
昭和	小	学校	①	防災機能強化	屋	S
南中音更	小	学校	①	防災機能強化	屋	S
木野東	小	学校	①	防災機能強化	屋	S
柳町	小	学校	①	防災機能強化	屋	S
緑陽台	小	学校	①	防災機能強化	屋	S
鈴蘭	小	学校	①	防災機能強化	屋	S
<p>平成27年度東日本大震災復興特別会計当初予算を活用し、本町の全小中学校について非構造部材の耐震改修工事を実施した。</p> <p>本町においては、平成25年度に校舎及び屋内運動場の構造体における耐震化率100%を達成しており、平成27年度の非構造部材耐震改修工事が完了したことと、より一層防災機能の強化が図られた。</p>						

果

成

項
目
主
要
な
施
策

音更中学校	①	防災機能強化	屋	S	○	平成28年2月24日
下音更中学校	①	防災機能強化	屋	S	○	平成28年2月24日
駒場中学校	①	防災機能強化	屋	S	○	平成28年2月24日
緑南中学校	①	防災機能強化	屋	S	○	平成27年9月10日
共栄中学校	①	防災機能強化	屋	S	○	平成28年2月24日

①地震、津波等の災害に備えるための整備

【達成状況】

○	計画どおり実施できた。
○	計画したが、一部実施できなかった。
○	計画したが、すべて実施できなかった。

(耐震化率の目標に対する達成状況)

学校区分	耐震化率 (%)	
	目標	達成状況
小学校	100.00	100.00
中学校	100.00	100.00

分類	校数	全棟数	昭和56年5月				耐震化率 I = (B+D) / A
			昭56年6月 以降に建築の 棟数 A	昭56年6月 以前に建築の 棟数 B	昭56年5月 以前に建築の 耐震補強 棟数 C	昭56年5月 以前に建築の 耐震補強 棟数 D	
小学校	校舎	13	19	16	3	3	100.00
	体育館	13	17	14	3	3	100.00
	計	26	36	30	6	6	100.00
中学校	校舎	5	11	8	3	3	100.00
	体育館	5	9	5	4	4	100.00
	計	10	20	13	7	7	100.00
合計	校舎	18	30	24	6	6	100.00
	体育館	18	26	19	7	7	100.00
	計	36	56	43	13	13	100.00

項目	成果	教育委員会の点検・評価																								
10. 教員住宅の整備	<p>教員住宅の整備を次のとおり実施した。</p> <table border="1" data-bbox="311 824 683 1780"> <thead> <tr> <th>工事名</th> <th>工事費</th> <th>内容</th> <th>容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員住宅温水ボイラー更新工事</td> <td>2,127,600</td> <td>温水ボイラー更新</td> <td>5戸</td> </tr> <tr> <td>教員住宅屋根塗装工事</td> <td>1,857,600</td> <td>5戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>教員住宅浴室ほか改修工事</td> <td>4,839,480</td> <td>2戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>東中音更旧教員住宅解体工事</td> <td>1,517,400</td> <td>旧教員住宅解体</td> <td>(71.28㎡) 1棟</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10,342,080</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工事名	工事費	内容	容	教員住宅温水ボイラー更新工事	2,127,600	温水ボイラー更新	5戸	教員住宅屋根塗装工事	1,857,600	5戸		教員住宅浴室ほか改修工事	4,839,480	2戸		東中音更旧教員住宅解体工事	1,517,400	旧教員住宅解体	(71.28㎡) 1棟	計	10,342,080			<p>教育委員会の点検・評価</p> <p>教職員の福利厚生の一環として整備している住宅の住環境改善のため、平成26年度に引き続き屋根の塗装工事を実施したほか、温水ボイラーの更新及び浴室のユニットバス化を実施した。また、老朽化が深刻な東中音更旧教員住宅1棟の解体を行った。また、老朽化が深刻な東中音更旧教員住宅1棟の解体を行った。今後とも入居者の要望を把握し、入居状況を踏まえながら質的整備を進める。</p>
工事名	工事費	内容	容																							
教員住宅温水ボイラー更新工事	2,127,600	温水ボイラー更新	5戸																							
教員住宅屋根塗装工事	1,857,600	5戸																								
教員住宅浴室ほか改修工事	4,839,480	2戸																								
東中音更旧教員住宅解体工事	1,517,400	旧教員住宅解体	(71.28㎡) 1棟																							
計	10,342,080																									
11. 開かれた学校づくり	<p>信頼される開かれた学校づくりに向けて次のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評議員の委嘱 (小学校57人、中学校22人) ・ 小規模特認校制度導入 (昭和小学校) 	<p>信頼される開かれた学校づくりを進めるため、学校評議員制度を活用している。</p> <p>今後とも、学校評議員を活用した「学校評価」及び情報の発信に努め、学校・地域・家庭のより一層の連携強化を図っていききたい。</p> <p>また、昭和小学校の小規模特認校制度については平成19年度から導入しており、平成27年度は4人が通学した。</p> <p>今後とも制度のPRに努めていきたい。</p>																								
12. いじめ等の対策	<p>いじめ問題等対策委員会を設置して、全小中学校でアンケート調査を実施し、調査結果をまとめた「いじめに関する実態調査」を教職員に配付した。</p> <p>また、平成25年度末に各学校において、いじめ防止基本方針を制定し、平成27年度には「音更町いじめ防止基本方針」を策定した。なお、平成25年度からハイパーQアンケートを実施し、いじめ等の早期発見に効果を上げている。</p>	<p>アンケート調査を基に、ネット上のいじめ等も含め、いじめの実態把握に取り組んでいる。</p> <p>また、校内体制の充実を図り、適応指導教室や心の教室相談員等と連携しながら、いじめ・不登校に対して、早期発見・早期解決に取り組んでいる。</p>																								
13. 児童生徒の安全確保	<p>児童生徒の安全確保対策として次のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新入学児童への防犯ブザーの配付 ・ 巡視強化のための用具購入 (蛍光反射腕章) ・ 全小中学校にAED (自動体外式除細動器) を配置 	<p>登下校時の通学路の安全対策については、各学校ごとに地域ぐるみで子どもを見守る取組が進められている。</p> <p>また、AEDは、平成19年度に全中学校に、平成22年度に全小学校に配置し、教職員に対しては一般救急講習を実施し、操作方法等の研修を行った。</p> <p>今後、児童生徒の安全確保の観点から継続していきたい。</p>																								

項	目		成	果	教育委員会の点検・評価
	主要な	施策			
14. 情報教育			<p>小中学校に教育用コンピュータを整備し、児童生徒が基礎的操作を習得できる環境を整え、情報化時代に対応できるような教育を実施した。</p> <p>次の学校のコンピュータ整備を実施した。</p> <p>整備校 駒場小学校、下土幌小学校、南中音更小学校、鈴蘭小学校</p>		<p>コンピュータ整備については、小学校は2人に1台での整備を平成23年度で完了し、平成26年度からは1人1台で整備している。中学校は1人に1台で整備している。</p>
15. 国際理解教育			<p>英語指導助手を配置し、中学校における生徒に対する英語の発音指導のほか、小中学校における英会話の補助及び地域における国際交流活動等の活動を行っている。</p> <p>英語指導助手 1人</p> <p>小中学校の外国語活動については、新学習指導要領に新たに位置づけられた事に伴い外部サポート講師を全小学校に派遣した。</p>		<p>英語指導助手については、契約期間を1年間とし、更新を認めている。小中学校をはじめ、社会人の英会話教室や国際交流の集いなど幅広く活用されており、今後も継続していきたい。</p> <p>外部サポート講師については平成21年度から新規に導入したが、今後も継続していきたい。</p>
16. 食教育			<p>生涯にわたって健康で生き生きとした生活を送ることを目指し、児童生徒に対し食品の品質や安全性などを自らが判断できる能力の育成を図っている。</p> <p>十勝管内で唯一の自校給食では、地産地消と食育推進のために、おとぶげ給食などを実施しており、児童生徒から好評を得ている。</p>		<p>本町の学校給食は、地場産品の割合が高いが、今後とも食教育の充実を図るとともに、安全・安心な給食の提供に継続して取り組む必要がある。</p> <p>平成20年度から、栄養士4人を栄養教諭として発令し、食教育充実に向けての体制整備を行った。</p>
17. 特別支援教育			<p>肢体不自由学級及び病弱学級在籍児童生徒のうち、特に介助が必要であるものに対し平成23年度から生活介助員を訪問介護事業所に業務委託し派遣した。</p> <p>通常学級には引き続き学習支援員を配置した。</p> <p>平成25年度から式学習支援員を配置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活介助員 5校 9人 ・特別支援教育学習支援員 13校 30人 ・複式教育学習支援員 5校 2人 		<p>今後とも、特別支援学級での肢体不自由等の障がいがある児童生徒の学校生活を介助するため、生活介助員の配置が必要である。</p> <p>平成20年度から導入した特別支援教育学習支援員は、通常学級における発達障がい等により特別な支援を要する児童生徒に対して、学習活動や学校生活上において支援を行っており、平成27年度は小中学校からの要望により、平成26年度より1人増員している。</p> <p>また、平成25年度から複式学校に複式学習支援員を配置し、複式学級の児童の指導補助を行い、学力向上の効果をおいている。</p>

項 目	成 果	教育委員会の点検・評価																				
			主 要 な 施 策																			
社会教育の振興 1. 青少年教育事業	団体活動を奨励し、体験学習の充実と指導者の養成を図り、青少年の健全育成に努めた。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>(単位 人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子ども姉妹町視察研修 (岩手県軽米町)</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>子ども会リーダー研修会 (夏期・冬期)</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>秋山ハイキング</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>子ども会世話人研修会 (前期・後期)</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>子ども体験隊</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>小・中学生のための出前ものづくり教室</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>熟年先生講座 (夏期・冬期)</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>国際交流のつどい</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>成人式</td> <td>377</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	(単位 人)	子ども姉妹町視察研修 (岩手県軽米町)	26	子ども会リーダー研修会 (夏期・冬期)	57	秋山ハイキング	18	子ども会世話人研修会 (前期・後期)	63	子ども体験隊	19	小・中学生のための出前ものづくり教室	15	熟年先生講座 (夏期・冬期)	53	国際交流のつどい	21	成人式	377	子ども姉妹町視察研修は、小学生の相互交流事業として定着し、相互理解が図られている。継続的姉妹町交流は本事業のみであり、今後とも継続が必要である。 各種子ども会事業は、地域とともに少年の健全育成を図るもので、地域との関係が希薄化する中、今後とも継続が必要である。また、子ども会世話人研修会については、各世話人・指導者の資質向上及び養成を図り、地域での青少年の健全育成を目指すもので、今後とも継続が必要である。 子ども体験隊、出前ものづくり教室 (釧路高専共催)、熟年先生講座 (北十勝退職校長教頭会共催)、国際交流のつどいは、様々な体験活動を通して豊かな情操や健全な身体育成を図るとともに子どもの居場所づくりを提供するものであり、ボランティアの有効活用を図りながら今後とも継続が必要である。参加人数は、子ども体験隊および熟年先生講座において前年度と比べて減少している。 成人式は、新成人に達した青年が一堂に集える場として、また社会人としての意識及び認識を持ってもらう機会として実施し、新成人による実行委員会で実施する第二部とともに今後とも継続が必要である。 青年リーダー研修会は、平成26年度をもって本町青年団が解散したため、平成27年度から事業を廃止した。
事業名	(単位 人)																					
子ども姉妹町視察研修 (岩手県軽米町)	26																					
子ども会リーダー研修会 (夏期・冬期)	57																					
秋山ハイキング	18																					
子ども会世話人研修会 (前期・後期)	63																					
子ども体験隊	19																					
小・中学生のための出前ものづくり教室	15																					
熟年先生講座 (夏期・冬期)	53																					
国際交流のつどい	21																					
成人式	377																					
2. 青少年対策	青少年の健全育成を図るため、街頭・巡視指導・通報・相談等を行い、非行防止に努めた。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>対 策 内 容</th> <th>実 施 回 数 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>街頭・巡視指導</td> <td>巡視 延571回 延 1,371人</td> </tr> <tr> <td>通報・相談</td> <td>通報 16件 相談 0件</td> </tr> <tr> <td>有害環境の浄化活動</td> <td>随時実施</td> </tr> <tr> <td>広報活動</td> <td>広報紙発行 12回 広報車運行 随時</td> </tr> <tr> <td>研修活動</td> <td>会議・研修会 17回</td> </tr> <tr> <td>関係機関・団体との連携</td> <td>派遣 13回 学校訪問 各3回</td> </tr> </tbody> </table>	対 策 内 容	実 施 回 数 等	街頭・巡視指導	巡視 延571回 延 1,371人	通報・相談	通報 16件 相談 0件	有害環境の浄化活動	随時実施	広報活動	広報紙発行 12回 広報車運行 随時	研修活動	会議・研修会 17回	関係機関・団体との連携	派遣 13回 学校訪問 各3回	街頭・巡視指導は、生涯学習センターを拠点に、5地区の青少年対策地区指導員と連携しながら活動している。今後とも地域との連携を更に密接に進め地域ぐるみで子どもたちの安全確保を図る必要がある。 通報等については、子どもたちの安全を守る活動として、学校と教育委員会で曜日時間に関係なく、不審者情報を正確かつ迅速に周知するため連絡網を整備し関係機関等と連携している。平成26年度と比べて通報は5件増え、その大半は声かけやつきまといによる事案であった。 広報紙「かけ橋」は月1回発行し、概ね好評の意見もあるが、より多くの町民に読んでももらえぬ紙面づくりに努める必要があり、今後とも継続して家庭・学校を通して配布していく必要がある。						
対 策 内 容	実 施 回 数 等																					
街頭・巡視指導	巡視 延571回 延 1,371人																					
通報・相談	通報 16件 相談 0件																					
有害環境の浄化活動	随時実施																					
広報活動	広報紙発行 12回 広報車運行 随時																					
研修活動	会議・研修会 17回																					
関係機関・団体との連携	派遣 13回 学校訪問 各3回																					

項 目	成 果	教育委員会の点検・評価																		
3. 成人教育事業 主要な施策	<p>学習の場と機会を提供し、計画的・継続的学習を進めるとともに、団体の自主的活動の助長に努めた。</p> <table border="1" data-bbox="347 974 667 1780"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数 (単位 人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>家庭教育学級 (18学級)</td> <td>2,044</td> </tr> <tr> <td>幼児家庭教育学級</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>女性ライフスクール</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>高齢者学級 (4学級)</td> <td>411</td> </tr> <tr> <td>高齢者大学 (すずらんカレッジ：4学年)</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>高齢者大学院 (すずらん大学院：2学年)</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>子育てテレホンサービス</td> <td>74 件</td> </tr> <tr> <td>家庭教育電話相談</td> <td>0 件</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	参加人数 (単位 人)	家庭教育学級 (18学級)	2,044	幼児家庭教育学級	31	女性ライフスクール	37	高齢者学級 (4学級)	411	高齢者大学 (すずらんカレッジ：4学年)	54	高齢者大学院 (すずらん大学院：2学年)	31	子育てテレホンサービス	74 件	家庭教育電話相談	0 件	<p>各家庭教育学級は、幼児・小中学生の保護者の子育てを支援するとともに資質の向上のため、今後も継続が必要である。幼児家庭教育学級は通年で実施しており、子育てにおける知識・能力を身に付ける学習の場を提供できている。</p> <p>女性ライフスクールの場合は、生活課題の解決や資質向上、地域での役割を醸成するたため、今後も必要である。</p> <p>各種高齢者教室は、社会の変化に対応した知識等の習得と健康で生きがいのある社会生活を支援するとともに、地域のリーダーの養成及び社会参加を助長する取組を実施するもので、今後も必要な事業である。</p> <p>各種子育て支援相談事業は、子育てに関する情報提供や電話等による相談業務を行い、子育てにおける問題解決に向けた有効な事業である。今後も継続していくことが必要であるが、平成27年8月に自動音声によるテレホンサービス機器が老朽化のため故障し修理不能となったことから、今後は手法を変更し、町ホームページにて文字によるサービスを行う方向で準備中である。なお、指導員が直接対応する電話相談については平成27年度の実績は0件であった。</p>
事業名	参加人数 (単位 人)																			
家庭教育学級 (18学級)	2,044																			
幼児家庭教育学級	31																			
女性ライフスクール	37																			
高齢者学級 (4学級)	411																			
高齢者大学 (すずらんカレッジ：4学年)	54																			
高齢者大学院 (すずらん大学院：2学年)	31																			
子育てテレホンサービス	74 件																			
家庭教育電話相談	0 件																			
4. 生涯学習事業	<p>生涯学習への認識を深めるとともに、町内高等教育機関等との連携による学習機会の提供を図った。</p> <table border="1" data-bbox="858 900 1184 1780"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数 (単位 人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯学習フェスティバル</td> <td>2,400</td> </tr> <tr> <td>〇〇J C オープンカレッジ (前期・後期：19講座・4事業) (音更町・帯広大谷短期大学共同生涯学習プログラム事業)</td> <td>1,248</td> </tr> <tr> <td>〇〇J C オープンカレッジ小学生講座 (3講座)</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>高校開放講座 (18講座) (音更町・音更高等学校連携生涯学習プログラム事業)</td> <td>273</td> </tr> <tr> <td>生涯学習まちづくりセミナー (道民カレッジ連携講座事業)</td> <td>109</td> </tr> </tbody> </table> <p>社会の変化に対応し心豊かに生きていくために、自己学習や世代間・地域間交流の促進を図った。</p> <table border="1" data-bbox="1311 900 1401 1780"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数 (単位 人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯学習講座 (7講座)</td> <td>110</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	参加人数 (単位 人)	生涯学習フェスティバル	2,400	〇〇J C オープンカレッジ (前期・後期：19講座・4事業) (音更町・帯広大谷短期大学共同生涯学習プログラム事業)	1,248	〇〇J C オープンカレッジ小学生講座 (3講座)	46	高校開放講座 (18講座) (音更町・音更高等学校連携生涯学習プログラム事業)	273	生涯学習まちづくりセミナー (道民カレッジ連携講座事業)	109	事業名	参加人数 (単位 人)	生涯学習講座 (7講座)	110	<p>生涯学習フェスティバルは、生涯学習を実践する各種団体による実行委員会形式のイベントであり、貴重な学習発表の場でもあり、参加人数も平成26年度並みの水準となっており、今後も継続が必要である。</p> <p>〇〇J C オープンカレッジ、高校開放講座は、帯広大谷短期大学及び音更高校と共同で実施する学習講座であり、高等教育機関等の教育力を活用した事業である。これは、地域の教育資源活用として極めて有効な事業であり、今後も住民ニーズに対応した、継続した魅力ある事業 (学習機会) を提供することが必要である。</p> <p>生涯学習まちづくりセミナーは、生涯学習によるまち (地域) づくり、人づくりを進め、生涯学習 (学習講座) であり、今後のまちづくり等を進め、住民参加と協働によるまちづくりを構築し、生涯学習を通じた住民参加と協働によるまちづくりを推進していくために有効な事業であり、今後も継続していくことが必要である。</p> <p>生涯学習講座は、実用講座、調理講座、芸術講座、趣味講座、語学講座、コミュニケーションの増進を促す講座など住民ニーズや時宜に対応した講座を実施し、生きがいづくりや資質の向上、また、文化的生活を支援していくもので、今後も継続が必要である。</p>		
事業名	参加人数 (単位 人)																			
生涯学習フェスティバル	2,400																			
〇〇J C オープンカレッジ (前期・後期：19講座・4事業) (音更町・帯広大谷短期大学共同生涯学習プログラム事業)	1,248																			
〇〇J C オープンカレッジ小学生講座 (3講座)	46																			
高校開放講座 (18講座) (音更町・音更高等学校連携生涯学習プログラム事業)	273																			
生涯学習まちづくりセミナー (道民カレッジ連携講座事業)	109																			
事業名	参加人数 (単位 人)																			
生涯学習講座 (7講座)	110																			

項 目	成 果	教育委員会の点検・評価																																																											
主要な施策 5. 文化・芸術事業	芸術鑑賞や発表の機会を提供するなど豊かな心を養うとともに、芸術文化の向上に努めた。 <table border="1" data-bbox="367 996 654 1780"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数 (単位 人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術文化大会参加補助金 (全道団体1件、全国個人1件、全国団体3件)</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>中学生のための音楽教室</td> <td>1,057</td> </tr> <tr> <td>小学生芸術鑑賞会</td> <td>1,662</td> </tr> <tr> <td>文化祭</td> <td>6,686</td> </tr> <tr> <td>芸術鑑賞事業 (事業協会との連携事業) 16事業</td> <td>10,232</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	参加人数 (単位 人)	芸術文化大会参加補助金 (全道団体1件、全国個人1件、全国団体3件)	25	中学生のための音楽教室	1,057	小学生芸術鑑賞会	1,662	文化祭	6,686	芸術鑑賞事業 (事業協会との連携事業) 16事業	10,232	教育委員会の点検・評価 (芸術文化大会参加補助金) 芸術文化大会参加補助金は、芸術文化部門において優秀な成績を収めた者に対して補助しているもので、芸術文化の奨励と向上を図るため、今後も継続が必要である。 (中学生のための音楽教室・小学生芸術鑑賞会) 今後も情操教育の一環として継続する必要がある。 (文化祭) 芸術鑑賞会や作品展示会を通じて人々に交流の場を広げ、地域に根ざした芸術文化活動を促進した。今後も活動を通じて人づくりにまちづくを進めるために継続する必要がある。 (芸術鑑賞事業) 文化事業協会と連携し、幼児・児童向け鑑賞事業、演劇鑑賞事業やクラシックコンサートなどの音楽鑑賞事業を実施し、各ジャンルで質の高い鑑賞事業を展開した。 平成26年度に比べ主催・共催の事業数を増やしたことや、各ホールで満席に近い事業が多かったことにより5,447人の増加となった。 事業費の制約もあるが、今後も鑑賞機会の充実を目指して取り組む必要がある。																																															
事業名	参加人数 (単位 人)																																																												
芸術文化大会参加補助金 (全道団体1件、全国個人1件、全国団体3件)	25																																																												
中学生のための音楽教室	1,057																																																												
小学生芸術鑑賞会	1,662																																																												
文化祭	6,686																																																												
芸術鑑賞事業 (事業協会との連携事業) 16事業	10,232																																																												
6. 文化センター利用状況	<table border="1" data-bbox="909 974 1061 1780"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事業別 内容</th> <th colspan="6">事業別 (単位 人)</th> </tr> <tr> <th>鑑賞発表会</th> <th>研修講習会</th> <th>会演習会</th> <th>サークル活動</th> <th>講座</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>51,322</td> <td>10,096</td> <td>6,058</td> <td>1,270</td> <td>3,684</td> <td>72,430</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1093 974 1236 1780"> <thead> <tr> <th colspan="3">各部屋別 (単位 人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大ホール</td> <td>小ホール</td> <td>楽屋1～3</td> </tr> <tr> <td>人数 42,291</td> <td>9,969</td> <td>4,004</td> </tr> <tr> <td>% 58.39%</td> <td>13.76%</td> <td>5.53%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4.77%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>3.06%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1268 974 1380 1780"> <thead> <tr> <th colspan="3">各部屋別 (単位 人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示室</td> <td>作法室</td> <td>研修室1</td> </tr> <tr> <td>人数 1,938</td> <td>426</td> <td>965</td> </tr> <tr> <td>% 2.68%</td> <td>0.59%</td> <td>1.33%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.09%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2.90%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>100.00%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※展示催し物広場：1,760人 (2.43%)</p>	事業別 内容	事業別 (単位 人)						鑑賞発表会	研修講習会	会演習会	サークル活動	講座	その他	人数	51,322	10,096	6,058	1,270	3,684	72,430	各部屋別 (単位 人)			大ホール	小ホール	楽屋1～3	人数 42,291	9,969	4,004	% 58.39%	13.76%	5.53%			4.77%			3.06%	各部屋別 (単位 人)			展示室	作法室	研修室1	人数 1,938	426	965	% 2.68%	0.59%	1.33%			2.09%			2.90%			100.00%	鑑賞会や発表会、講習会、各種サークル活動等に幅広く利用されており、住民の身近な施設としての役割りを果たしている。今後も施設の適正な維持管理に努め、利用しやすい施設づくりを目指す。 平成27年度は、屋外ステージ修繕を実施した。
事業別 内容	事業別 (単位 人)																																																												
	鑑賞発表会	研修講習会	会演習会	サークル活動	講座	その他																																																							
人数	51,322	10,096	6,058	1,270	3,684	72,430																																																							
各部屋別 (単位 人)																																																													
大ホール	小ホール	楽屋1～3																																																											
人数 42,291	9,969	4,004																																																											
% 58.39%	13.76%	5.53%																																																											
		4.77%																																																											
		3.06%																																																											
各部屋別 (単位 人)																																																													
展示室	作法室	研修室1																																																											
人数 1,938	426	965																																																											
% 2.68%	0.59%	1.33%																																																											
		2.09%																																																											
		2.90%																																																											
		100.00%																																																											

項 目	成 果	教育委員会の点検・評価																																						
7. 図書、視聴覚の振興	<p>(1) 図書館の利用状況</p> <p>① 図書の貸出状況</p> <table border="1" data-bbox="306 1064 598 1780"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>貸出冊数</th> <th>貸出人数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書館</td> <td>213,686</td> <td>51,133人</td> </tr> <tr> <td>分館</td> <td>23,859</td> <td>6,809人</td> </tr> <tr> <td>団体</td> <td>38,995</td> <td>933件</td> </tr> <tr> <td>市町村連携貸出</td> <td>465</td> <td>283件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>277,005</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>② 視聴覚教材の貸出状況 (単位 件)</p> <table border="1" data-bbox="699 1164 798 1780"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>貸出件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教材 (ビデオ・DVD・CD)</td> <td>9,864</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 図書館 (本館) の入館者数 99,216 人</p> <p>④ 図書館の蔵書冊数等 (単位 冊)</p> <table border="1" data-bbox="928 936 1088 1780"> <thead> <tr> <th colspan="2">平成 27 年度 図書等 受入 数</th> <th>除 籍 冊 数 等</th> <th>蔵 書 冊 数 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>購 入</td> <td>寄 贈 等</td> <td>計</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6,473</td> <td>1,723</td> <td>8,196</td> <td>3,809</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>202,364</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	貸出冊数	貸出人数等	図書館	213,686	51,133人	分館	23,859	6,809人	団体	38,995	933件	市町村連携貸出	465	283件	計	277,005		区 分	貸出件数	教材 (ビデオ・DVD・CD)	9,864	平成 27 年度 図書等 受入 数		除 籍 冊 数 等	蔵 書 冊 数 等	購 入	寄 贈 等	計		6,473	1,723	8,196	3,809				202,364	<p>図書の貸出状況は平成26年度より9,000冊以上増加している。年代別に分析すると、ほとんどの年代で増加しており、幼児の年代だけがわずかに減少している。ただ、小中学生の増加以上に児童書の貸出冊数は増加していることから、保護者が子どもたちのための本を借り出しやすくなること、今後も図書館来館を促すような事業展開や広報などを通して情報を発信し図書館利用を促進する必要がある。</p>
区 分	貸出冊数	貸出人数等																																						
図書館	213,686	51,133人																																						
分館	23,859	6,809人																																						
団体	38,995	933件																																						
市町村連携貸出	465	283件																																						
計	277,005																																							
区 分	貸出件数																																							
教材 (ビデオ・DVD・CD)	9,864																																							
平成 27 年度 図書等 受入 数		除 籍 冊 数 等	蔵 書 冊 数 等																																					
購 入	寄 贈 等	計																																						
6,473	1,723	8,196	3,809																																					
			202,364																																					

項 目 策 施 な 要 主	成 成 果	教 育 委 員 会 の 点 検 ・ 評 価																														
	<p>(2) 図書館事業の実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>読書感想文コンクール</td> <td>252人</td> </tr> <tr> <td>図書交換会</td> <td>198人</td> </tr> <tr> <td>古雑誌市</td> <td>140人</td> </tr> <tr> <td>古本市</td> <td>257人</td> </tr> <tr> <td>子ども映画会</td> <td>102人</td> </tr> <tr> <td>絵本作家講演会</td> <td>71人</td> </tr> <tr> <td>芸術鑑賞講座</td> <td>52人</td> </tr> <tr> <td>文学講座</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>工作教室</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>親子図書館見学会</td> <td>8組20人</td> </tr> <tr> <td>ロビーコンサート</td> <td>194人</td> </tr> <tr> <td>文庫設置</td> <td>小学校13校・学童保育所8カ所</td> </tr> <tr> <td>ブックスタート</td> <td>350組</td> </tr> <tr> <td>ブックスタートプラス</td> <td>363組</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	参加人数等	読書感想文コンクール	252人	図書交換会	198人	古雑誌市	140人	古本市	257人	子ども映画会	102人	絵本作家講演会	71人	芸術鑑賞講座	52人	文学講座	33人	工作教室	43人	親子図書館見学会	8組20人	ロビーコンサート	194人	文庫設置	小学校13校・学童保育所8カ所	ブックスタート	350組	ブックスタートプラス	363組	<p>平成26年度と比較して事業によって実績の増減はあるが、全体的には多くの人が参加している。各事業は町民の学習意欲の向上と関係図書の利用も期待できるとともに、継続して実施していく。郊外の小学校対象の移動文庫及び平成27年度から設置している大規模小学校の全校級を対象としたブックスタート事業から大変良い評価をいただいている。また、ブックスタート事業にも参加者には大変好評である。今後は学期前の子どもの読書の習慣をいかに大衆好評である。ブックスタート事業の更なる拡大を図るとともに幼稚園や保育園、中学校などとも連携を強化し、子どもの読書活動を推進していく必要がある。</p>
事業名	参加人数等																															
読書感想文コンクール	252人																															
図書交換会	198人																															
古雑誌市	140人																															
古本市	257人																															
子ども映画会	102人																															
絵本作家講演会	71人																															
芸術鑑賞講座	52人																															
文学講座	33人																															
工作教室	43人																															
親子図書館見学会	8組20人																															
ロビーコンサート	194人																															
文庫設置	小学校13校・学童保育所8カ所																															
ブックスタート	350組																															
ブックスタートプラス	363組																															

項 目	成 果	教育委員会の点検・評価																																																																																													
			主要な施策																																																																																												
社会体育の振興 1. 体力づくり、健康づくりの振興	楽しく継続的に体力づくりを実践する態度を育て、健康の維持増進に努めた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>(単位)</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○スポーツライフ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・幼児たいそう教室(幼児教育)</td> <td></td> <td>138</td> </tr> <tr> <td>・チャレンジスポーツ教室(少年教育)</td> <td></td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>・いきいき女性軽スポーツ教室(成人教育)</td> <td></td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>・40歳～64歳までの軽スポーツ教室(成人教育)</td> <td></td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>・高齢者スポーツ学級(成人教育)</td> <td></td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>○スポーツ教室</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・こども体操教室</td> <td></td> <td>403</td> </tr> <tr> <td>・こどもHIPHOP教室</td> <td></td> <td>725</td> </tr> <tr> <td>・こどもトランポリン教室</td> <td></td> <td>316</td> </tr> <tr> <td>・バルシューレ教室</td> <td></td> <td>111</td> </tr> <tr> <td>・短期子供体操教室</td> <td></td> <td>182</td> </tr> <tr> <td>・ジュニアトラポリン教室</td> <td></td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>・初心者スケート教室</td> <td></td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>・こども水泳教室</td> <td></td> <td>1,128</td> </tr> <tr> <td>・大人水泳教室</td> <td></td> <td>18,188</td> </tr> <tr> <td>・短期こども水泳教室</td> <td></td> <td>365</td> </tr> <tr> <td>・ひみつの特訓</td> <td></td> <td>274</td> </tr> <tr> <td>・ステップアップ水泳教室</td> <td></td> <td>188</td> </tr> <tr> <td>・ジュニアステップアップ水泳教室</td> <td></td> <td>1,020</td> </tr> <tr> <td>・トップステップアップ水泳教室</td> <td></td> <td>219</td> </tr> <tr> <td>・個人レッスン(大人水泳)</td> <td></td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>○体力づくり教室</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・リフレッシュエアロ、ひきしめ教室</td> <td></td> <td>4,187</td> </tr> <tr> <td>・大人のためのスタジオプログラム</td> <td></td> <td>16,510</td> </tr> <tr> <td>・水中運動</td> <td></td> <td>9,567</td> </tr> <tr> <td>○スポーツ大会</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・すずらん駅伝小学生大会兼健康マラソン大会</td> <td></td> <td>239</td> </tr> <tr> <td>・町民スケート大会</td> <td></td> <td>370</td> </tr> <tr> <td>・町民体育祭(陸上、剣道、弓道、柔道、バドミントン、バレー、フットボール、ミニバレー、軟式野球、フットサル、卓球、パークゴルフ、ソフトテニス)</td> <td></td> <td>1,627</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	(単位)	参加人数	○スポーツライフ			・幼児たいそう教室(幼児教育)		138	・チャレンジスポーツ教室(少年教育)		30	・いきいき女性軽スポーツ教室(成人教育)		86	・40歳～64歳までの軽スポーツ教室(成人教育)		19	・高齢者スポーツ学級(成人教育)		83	○スポーツ教室			・こども体操教室		403	・こどもHIPHOP教室		725	・こどもトランポリン教室		316	・バルシューレ教室		111	・短期子供体操教室		182	・ジュニアトラポリン教室		20	・初心者スケート教室		50	・こども水泳教室		1,128	・大人水泳教室		18,188	・短期こども水泳教室		365	・ひみつの特訓		274	・ステップアップ水泳教室		188	・ジュニアステップアップ水泳教室		1,020	・トップステップアップ水泳教室		219	・個人レッスン(大人水泳)		92	○体力づくり教室			・リフレッシュエアロ、ひきしめ教室		4,187	・大人のためのスタジオプログラム		16,510	・水中運動		9,567	○スポーツ大会			・すずらん駅伝小学生大会兼健康マラソン大会		239	・町民スケート大会		370	・町民体育祭(陸上、剣道、弓道、柔道、バドミントン、バレー、フットボール、ミニバレー、軟式野球、フットサル、卓球、パークゴルフ、ソフトテニス)		1,627	<p>(スポーツライフ) 総合体育館と温水プールでは、幼児から高齢者まで幅広い年代の方々に運動やスポーツに親しむ機会を提供するため、各種事業を継続的に開催している。</p> <p>(スポーツライフでは、中・長期の教室等を実施しており、幼児・少年教育の教室は平成26年度より10%程度増加しているが、成人教育の教室では、横ばいや微減の傾向がある。</p> <p>(スポーツ教室) 大人向けの教室は平成26年度と比べ横ばいの傾向で、こども向けの教室については、平成26年度比で50%以上増となった教室もあり、全体で4%の増となっている。さらに、平成27年度に新しく設けた教室を含めた平成26年度との比較では10%の増となっている。</p> <p>(体力づくり教室) エアロビクスや水中運動など、各年代や体力に応じたプログラムを実施している。各事業とも指定管理者制度により、民間のノウハウを生かしたプログラムを展開している。「大人のたのめ」のスタジオプログラム」は年々参加者が増加しており、平成20年度実績の4.3倍である。ひきしめ教室は平成26年度より5%増、水中運動については、微減となった。</p> <p>今後も住民のニーズを把握しながら、プログラムを工夫していくことが必要である。</p> <p>(スポーツ大会) 町体育協会とその加盟団体は、教育委員会と共催または独自に町民大会などの「各種大会」を開催することで、日頃の練習成果を発揮し合い、参加者同士の交流と親睦を深めることができる機会の実現に努めている。</p>
事業名	(単位)	参加人数																																																																																													
○スポーツライフ																																																																																															
・幼児たいそう教室(幼児教育)		138																																																																																													
・チャレンジスポーツ教室(少年教育)		30																																																																																													
・いきいき女性軽スポーツ教室(成人教育)		86																																																																																													
・40歳～64歳までの軽スポーツ教室(成人教育)		19																																																																																													
・高齢者スポーツ学級(成人教育)		83																																																																																													
○スポーツ教室																																																																																															
・こども体操教室		403																																																																																													
・こどもHIPHOP教室		725																																																																																													
・こどもトランポリン教室		316																																																																																													
・バルシューレ教室		111																																																																																													
・短期子供体操教室		182																																																																																													
・ジュニアトラポリン教室		20																																																																																													
・初心者スケート教室		50																																																																																													
・こども水泳教室		1,128																																																																																													
・大人水泳教室		18,188																																																																																													
・短期こども水泳教室		365																																																																																													
・ひみつの特訓		274																																																																																													
・ステップアップ水泳教室		188																																																																																													
・ジュニアステップアップ水泳教室		1,020																																																																																													
・トップステップアップ水泳教室		219																																																																																													
・個人レッスン(大人水泳)		92																																																																																													
○体力づくり教室																																																																																															
・リフレッシュエアロ、ひきしめ教室		4,187																																																																																													
・大人のためのスタジオプログラム		16,510																																																																																													
・水中運動		9,567																																																																																													
○スポーツ大会																																																																																															
・すずらん駅伝小学生大会兼健康マラソン大会		239																																																																																													
・町民スケート大会		370																																																																																													
・町民体育祭(陸上、剣道、弓道、柔道、バドミントン、バレー、フットボール、ミニバレー、軟式野球、フットサル、卓球、パークゴルフ、ソフトテニス)		1,627																																																																																													

項 目	成 果	教育委員会の点検・評価																															
主要な施策	・秋のスポーツ大会（剣道、サッカー、フットボール、弓道、軟式野球、柔道、バドミントン、フットボール、バレー、バドミントン、卓球、バレーボール） 1,395	教育委員会の点検・評価																															
2. 指導者、リーダーの養成	スポーツ指導者及びリーダーを養成するため次のとおり実施した。 (単位 人) <table border="1" data-bbox="414 996 534 1780"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・スポーツ少年団リーダー研修会</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ指導者研修会</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	参加人数	・スポーツ少年団リーダー研修会	16	・スポーツ指導者研修会	50	(スポーツ少年団リーダー研修会) 所属のスポーツ少年団でリーダーとして活動するための自覚と資質の向上を図るとともに、団相互の交流を深める。 (スポーツ指導者研修会) スポーツ活動の中核となるべき指導者を養成することは極めて重要であることから、研鑽する場を提供していきたい。																									
事業名	参加人数																																
・スポーツ少年団リーダー研修会	16																																
・スポーツ指導者研修会	50																																
3. 奨励及び顕彰	スポーツの奨励と向上を図るため次のとおり実施した。 (単位 人) <table border="1" data-bbox="646 996 813 1780"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・スポーツ大会参加補助 (全国 29件)</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ賞等表彰 (全道 60件)</td> <td>276</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ賞等表彰 (3団体、22個人)</td> <td>42</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	人数	・スポーツ大会参加補助 (全国 29件)	52	・スポーツ賞等表彰 (全道 60件)	276	・スポーツ賞等表彰 (3団体、22個人)	42	(スポーツ大会参加補助) 全道・全国大会規模のスポーツ競技大会への参加者に対して参加経費の一部を補助している。 (スポーツ賞等表彰) スポーツ賞等は、スポーツ基本法に基づき、毎年スポーツ分野において、優秀な成績を収めた方やスポーツ推進に功績のあった方を表彰している。																							
事業名	人数																																
・スポーツ大会参加補助 (全国 29件)	52																																
・スポーツ賞等表彰 (全道 60件)	276																																
・スポーツ賞等表彰 (3団体、22個人)	42																																
4. 施設の利用状況	(1) 屋内体育施設 (単位 人、件) <table border="1" data-bbox="925 1064 1125 1780"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施設名</th> <th rowspan="2">個人利用件数</th> <th rowspan="2">団休利用件数</th> <th colspan="2">利用人数</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合体育館</td> <td>73,178</td> <td>4,619</td> <td>84,314</td> <td>157,492</td> </tr> <tr> <td>武道館</td> <td>1,682</td> <td>958</td> <td>28,027</td> <td>29,709</td> </tr> <tr> <td>温水プール</td> <td>66,531</td> <td>176</td> <td>6,224</td> <td>72,755</td> </tr> </tbody> </table> (2) 軽スポーツセンター (単位 人、件) <table border="1" data-bbox="1236 1209 1364 1780"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>件数</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鈴蘭軽スポーツセンター</td> <td>954</td> <td>11,807</td> </tr> <tr> <td>宝来軽スポーツセンター</td> <td>1,093</td> <td>15,885</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	個人利用件数	団休利用件数	利用人数		件数	計	総合体育館	73,178	4,619	84,314	157,492	武道館	1,682	958	28,027	29,709	温水プール	66,531	176	6,224	72,755	施設名	件数	人数	鈴蘭軽スポーツセンター	954	11,807	宝来軽スポーツセンター	1,093	15,885	(屋内体育施設) 屋内体育施設利用状況は、平成26年度より総合体育館・武道館・温水プールともに微増している。 (軽スポーツセンター) 軽スポーツセンター利用状況は、鈴蘭が3%増、宝来が2%の減となった。
施設名	個人利用件数				団休利用件数	利用人数																											
		件数	計																														
総合体育館	73,178	4,619	84,314	157,492																													
武道館	1,682	958	28,027	29,709																													
温水プール	66,531	176	6,224	72,755																													
施設名	件数	人数																															
鈴蘭軽スポーツセンター	954	11,807																															
宝来軽スポーツセンター	1,093	15,885																															

項 目	成 果	教育委員会の点検・評価																												
主要な施策	<p>(3) 運動公園等</p> <table border="1" data-bbox="316 1272 708 1774"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>希望ヶ丘野球場</td> <td>4,420</td> </tr> <tr> <td>柳町野球場</td> <td>535</td> </tr> <tr> <td>ソフトボール場(1か所、2面)</td> <td>3,990</td> </tr> <tr> <td>サッカー場(2か所、4面)</td> <td>31,308</td> </tr> <tr> <td>テニスコート(3か所、10面)</td> <td>6,742</td> </tr> <tr> <td>アイスホッケー場</td> <td>4,566</td> </tr> <tr> <td>カーリントン場</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>パークゴルフ場(5コース)</td> <td>116,527</td> </tr> <tr> <td>(うち団体利用)</td> <td>(15,869)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(中央公園) (柳町、木野) (希望ヶ丘、緑陽台、木野北)</p> <p>※有料の希望ヶ丘野球場以外は、団体利用申請に基づき集計。</p> <p>(4) 学校開放事業</p> <table border="1" data-bbox="826 896 906 1774"> <thead> <tr> <th>種目</th> <th>指定開放校(11校)</th> <th>地域開放校(10校)</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>73,626</td> <td>14,165</td> <td>87,791</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位 人)</p>	施設名	人数	希望ヶ丘野球場	4,420	柳町野球場	535	ソフトボール場(1か所、2面)	3,990	サッカー場(2か所、4面)	31,308	テニスコート(3か所、10面)	6,742	アイスホッケー場	4,566	カーリントン場	40	パークゴルフ場(5コース)	116,527	(うち団体利用)	(15,869)	種目	指定開放校(11校)	地域開放校(10校)	計		73,626	14,165	87,791	<p>(運動公園)</p> <p>運動公園等の利用状況は、柳町野球場、サッカー場、アイスホッケー場、パークゴルフ場が前年度より32～8%の増加、ソフトボール場、テニスコート、カーリントン場が41～14%の減少、希望ヶ丘野球場が横ばいとなっており、運動公園施設全体としては、7%の増加となっている。</p> <p>(学校開放事業)</p> <p>学校開放事業の利用状況は、平成26年度と比較して微減となったが、体育館耐震工事の影響も考えられる。</p> <p>(施設全般)</p> <p>気候に健康づくりやスポーツに取り組みむことができている環境は整備されているが、競技志向の高まりから施設コンディションのグレードアップや施設の新設を望む声も聞かれ、今後の検討課題となっている。</p>
施設名	人数																													
希望ヶ丘野球場	4,420																													
柳町野球場	535																													
ソフトボール場(1か所、2面)	3,990																													
サッカー場(2か所、4面)	31,308																													
テニスコート(3か所、10面)	6,742																													
アイスホッケー場	4,566																													
カーリントン場	40																													
パークゴルフ場(5コース)	116,527																													
(うち団体利用)	(15,869)																													
種目	指定開放校(11校)	地域開放校(10校)	計																											
	73,626	14,165	87,791																											
5. 指定管理者制度の導入	<p>次の社会体育施設について、指定管理者制度を導入した。</p> <p>(1) 温水プール 平成18年度～</p> <p>(2) 総合体育館・武道館 平成19年度～</p>	<p>平成26年度と比較して総合体育館・武道館・温水プールの利用者は微増している。</p> <p>総じて大きな利用状況の変化はなく、平成26年度に続いて良好な運営状況と認められる。</p> <p>更なるサービスの提供と、事業の充実に期待したい。</p>																												

4 昨年度の学識経験者からの主な意見と対応状況

意見	対応状況
<p>【評価手法】</p> <p>点検・評価の客観性を確保するためには、数値による指標の設定が望ましいと思われるが、教育活動に係る点検・評価では数値化になじまない内容もあることから、児童生徒や教職員そして保護者などから直接的な聞き取りを行うことなども含め、点検・評価の在り方を検討し、点検・評価の一層の質的な充実を期待する。</p> <p>【教育委員会の活動状況】</p> <p>学校訪問の実施にあたり、重点テーマを設定し意見交換を行うことは、取り組むべき課題への意識を高める動機づけになると思われるので、重点テーマの設定を熟考しつつ継続していただけたらと思う。平成26年度の学校訪問は、「道徳教育の推進」を重点テーマとして行っている。教科としての「道徳」が叫ばれる中、タイムリーである。重点テーマを継続し、各学校の課題などに指導・助言していただきたい。</p> <p>【重点的な評価】</p> <p>〈確かな学力の向上〉</p> <p>全国学力・学習状況調査結果の分析と検証を行い、「学力の傾向と改善のポイント」としてまとめ各学校へ資料として提示し、各学校では「支援プラン」を作成して取り組んでいることは大いに評価できる。今後、各学校が「支援プラン」を実効ある内容にするとともに、検証改善サイクルを確立し、具体的で継続的に取り組むよう指導・助言する必要がある。</p> <p>教員には児童生徒の発言や悩みを受け止め、会話をしたり、励ましたり、支えたり、勇気づけたりする力や楽しく、分かりやすい授業をする力が求められる。各学校では学力の向上を目指し、校</p>	<p>客観性を確保するための数値による指標の設定については、引き続き研究していく。指標とは異なるが、一部の項目において経年変化を確認できるようグラフを用いた。</p> <p>数値化になじまない内容について、児童生徒、教職員及び保護者などから意見を伺う方法について研究していく。</p> <p>学校訪問の重点テーマは、毎年、教育委員が話し合って主体的に決定している。道徳の教科化を見据えて、平成27年度も「道徳」を重点テーマとして継続した。今後も、取り組むべき課題であることとタイムリーな内容であることを大切に重点テーマを決定していく。</p> <p>今後も継続して「学力の傾向と改善のポイント」を資料として各学校に提供する。</p> <p>また、各学校が「支援プラン」を実効ある内容にできるよう、検証改善サイクルの確立に努め、継続的な支援を行っていく。</p> <p>今後も、教職員校内研修交付金及び校内研修実践指定校事業により、教員の研修機会の確保に努めていく。</p> <p>また、力を身に付けた教員が育つ学校環境を整</p>

内研修を通して授業改善に取り組んでいるが、このような力を身に付けた教員が育つ学校環境を整えるよう支援していただきたい。

(体力・運動能力の向上)

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の分析と検証が行われていると思われる。可能であれば点検及び評価の資料の中に例えば「児童生徒の体力の現状と課題」などとして分析と検証結果をまとめて掲載していただきたい。

教育行政推進の方針に「体力づくり1校1実践」を打ち出しているが、時間、場所、指導者などとの係りで取組が困難な学校もあるのではないかとと思われる。各学校の取組状況や課題を把握し、効果的な指導・助言及び支援する必要がある。

(いじめ・不登校等への取り組みの充実)

アンケート調査において「いじめ」の実態を把握し、未然防止対策を講じて行くことは今後も継続していただきたいと思う。更に、近年はSNSを通じたいじめなどが発生している状況から、適切な使用方法などの指導強化も必要ではないかと考える。

児童生徒及び家庭の複雑な課題に直面する教員の方たち自身の課題解決のためのスキルアップも必要であるが、スーパーバイザーの役割を担える教員の育成や配置が必要ではないかと考える。また、教員のメンタルヘルスの面での支援体制の整備も必要ではないかと考える。

中学校において不登校の生徒が大幅に増加しているとのことであり、その対応に教職員や保護者は大変苦慮しているものと思われる。各学校の実情や取組状況を把握し、心の教室相談員や学習支援員を増員するなどの人的な支援をしていただきたい。また、適応指導教室と学校間の連携や職員間の情報交換などを日常的に行うよう工夫

え、知識や技術の共有と全体の底上げを図っていく。

「児童生徒の体力の現状と課題」については、分析方法と検証方法について調査研究を行っていく。

各学校の取組状況や課題を把握し、「体力づくり1校1実践」が有効なものとなるよう支援していく。

また、各学校における取組内容の共有にも務めていく。

アンケート調査による実態把握と未然防止対策は、今後も継続していく。SNS等に対する対応として、情報モラル教育に関する取組を推進する。

平成28年度に学校教育相談員を配置し、相談体制の強化を図った。今後、現場の教員のサポートや関係機関との連携を強化していく。

心の教室相談員及び特別支援教育学習支援員については、その必要性を見極めながら継続して配置し、財源確保に努めていく。

また、適応指導教室と学校間の連携が図られるよう、情報交換の在り方について考え、課題の共有に努めていく。

する必要がある。

いじめの問題では、アンケート調査によるいじめの認知件数の把握も大切であるが、何よりも日常的な素早い対応が重要である。「音更町いじめ問題対策委員会」がリーダーシップを発揮し、各学校においていじめの早期発見、早期解消がタイムリーに評価できるような指標を検討していただきたい。

多くの児童生徒がインターネットを活用するようになってきている。それに伴い表面化しにくい「ネットいじめ」など、人格権を侵害する問題も報告されている。いじめ問題への対応の一つとして、人権教育を推進するよう指導・助言する必要がある。

【文教対策】

（教職員健康対策）

健康診断の実施については、受診することが目的ではなく、結果に基づいた生活習慣の振り返りや改善が重要となると思われるので、保健指導を継続して受けられる体制の整備や精密検査が必要となった方への配慮等も必要であると考えます。

（教育の日推進事業）

町民の教育への関心を高め、本町教育の充実と発展を図る趣旨から、「郷土」に係る内容を取り入れることはできないか、検討していただきたい。

（開かれた学校づくり）

特色ある（創意工夫がある）教育や活動を行っている学校について、様々な機会を活用し情報を発信することで、信用される開かれた学校づくりに結びつくと考えます。

学校評議員制度を活用した学校評価を行っており、学校を活性化する観点から大変効果的と思

引き続き、いじめの早期発見、早期解消に努め、いじめの早期発見、早期解消をタイムリーに評価できるような指標を調査研究していく。

様々な場面や機会を捉えて人権モラルの普及啓発に努めていく。

また、インターネットの活用や人権教育については、道徳の活用も推奨していく。

生活習慣の改善や継続した保健指導については、共済組合が実施する各種事業の周知と活用を図っていく。精密検査が必要となった方に対しては、引き続き合理的な配慮を行っていく。

過去のおとふけ「教育を考える日」記念フェスタにおいて、「駒踊り」が発表されたことがある。「郷土」に係る内容をどのように取り入れるか、引き続き実行委員会と協議していく。

各種機会を捉えて特色ある教育活動の周知に努めていく。

学校評議員の活動状況を学校だよりで紹介している学校もあるので、このような取組を推奨し

われる。今後、評議員の活動状況を保護者や地域住民に知らせるなど、一層開かれた学校づくりを推進するよう指導・助言する必要がある。

(特別支援教育)

特別支援学級の教員については、特別支援学校教員免許が必ず必要になるわけではないとのことであるが、特に知的・情緒学級では児童生徒の個別の状況や発達段階を見極めた上での教育が重要となるため、教員の質の向上が図れる体制づくりが必要ではないかと考える。

生活介助員や学習支援員、複式教育学習支援員が配置されている学校では、一層充実した学習が行われていると思われる。配置した成果や課題を点検・検証するとともに、あくまでも教員のサポートという趣旨を徹底していただきたい。

【社会教育の振興】

本町青年団が解散したことは大変残念なことである。人間関係が年々希薄化する中で、小・中学生や青年の団体活動を活発化させるには多くの労力を要すると思われるが、事業の趣旨を広く啓蒙し、参加者が増加する具体的な手立てを工夫していただきたい。

図書の利用状況において、全体的に利用が減少しているとのことである。特に、中学生の利用の減少について、その要因を検証する必要があると思われる。「音更町子どもの読書活動推進計画」の趣旨を踏まえ、各学校との連携を深め、具体的な取組を工夫していただきたい。

【社会体育の振興】

スポーツ少年団リーダー研修会への参加人数が極めて少ない。学校行事と重なったためということであるが、学校との係りも重要であることから、学校との連携・協力を深め、研修会の目的が達成されることを期待する。

ていく。

特別支援学級の教員については、各種研修の受講による専門性の向上と併せて、特別支援学校教員免許の取得を推奨していく。

生活介助員、特別支援教育学習支援員及び複式教育学習支援員を配置したことによる成果や課題を検証していく。

また、あくまで教員のサポートとして配置していることを徹底する。

青年団が解散したことは、大変重く受け止めている。事業の趣旨の啓蒙と併せて、時代に合った団体活動の在り方について調査研究をしていく。

音更町子どもの読書活動推進計画に基づき、各学校と連携した取組を進め、各種事業を通じて、図書と触れ合う機会の増加に努める。中学生は試験勉強の座席利用は多いため、図書利用の増加に向けた取組を研究していく。

スポーツ少年団リーダー研修会の目的を達成するため、学校行事を勘案しながら、参加しやすい日程を設定したことで、例年並みの参加者を得ることができた。

Ⅱ 学識経験者の意見

帯広大谷短期大学准教授 阿部 好恵

1 教育委員会の活動状況

教育委員と事務局職員による町内全小・中学校に対する訪問が継続的に実施されている。現場に出向き、教育環境の実状を把握した上で、学校運営の現状や課題等に関する情報交換等を行っていることについて評価できる。さらに、学びの様子の見学や一部の学校においては学校給食の試食等も行われており、訪問時の工夫が見受けられる。今後の訪問の際、より有益な機会になるよう、子どもたちから学校生活に関する感想や意見を聴取する等、より児童生徒に焦点を当てた内容の設定も検討頂きたい。また、平成27年度は前年度から継続して「道德教育の推進」が重点テーマとして挙げられており、今後もテーマを基に意見交換を活発なものとし、各学校の課題に対する助言・指導を期待する。

2 重点的な評価

(1) 確かな学力の向上

子どもの学力の傾向を把握し課題を捉えることを目的として、継続して「全国学力・学習状況調査」へ参加し、調査結果の分析を整理した学習指導資料『音更町の学力の傾向と改善のポイント』を毎年作成していることは評価できる。

小学校では3年間の経年比較において、「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問において、1時間以上勉強すると回答した子どもの割合が10ポイント以上伸び、「学校に行くのが、楽しいと思いますか」という質問において、「楽しい」と回答する子どもの割合が徐々に増加し、全国の結果と同程度の割合となっている。一方、「算数（A・B）」の正答率の低さという課題点が明確化したことから、今後は調査結果を踏まえた授業内容の見直しや習熟度に応じて授業外で補助的な学習を行う等の対策が求められる。

中学校では「昨年度までに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」や「昨年度までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」について、2年間の経年比較において「いた」と回答している割合が両項目とも増加しており、授業改善の成果が結果に反映されたものと推測される。加えて、全教科の正答率が全道の結果を上回っていること、全国の結果との比較においても同等かそれ以上の結果が認められ大いに評価できる。

その他、特別支援教育の推進のため状況に応じた特別支援教育学習支援員等の人員

の配置、特別に配慮を要する子どもに対する補足的な学習サポート、長期休業中の学習支援等も行われており、今後も教育委員会や学校、家庭や地域との連携を通じ、児童生徒の学力向上のための取り組みを行って頂きたい。

(2) 健やかな体の育成

教育委員会の取り組みにおいて、本報告書によれば「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」の分析結果を体力向上の基礎資料として提示していると示されている。学力と同様に「体力は「生きる力」の重要な要素の一つ」であり、体力・運動能力も町民の関心の高い項目と考えられるため、昨年度の指摘と同様、本報告書において調査結果を受けた「児童生徒の体力の現状と課題」等として分析結果が概観できるよう整理する必要があると考えられる。

教育委員会や学校の取り組みの中で、食に関する指導の充実が図られており、音更産食材を使用した「おとぶけ給食」等は、食を通じて地域の生産者と子どもが交流できる機会ともなっており、地産地消や食育の推進は重要であることから、今後も継続して取り組んで頂きたい。また、早寝・早起き・朝ごはんの定着、帰宅後の生活習慣については学校生活だけでなく、家庭での規則正しい生活が基盤となるため、PTAとの情報共有・意見交換等の連携した取り組みは必須であろう。

(3) 豊かな心の育成

「いじめ防止対策推進法」を受けて平成27年度に「音更町いじめ防止基本方針」を策定し、いじめ防止のための基本的な考え方と対策、重大事態への対処等を規定している。一方、いじめに関するアンケート調査結果で「4月以降にいじめられたことがある」と回答した小学生が274件、中学生では24件となっている。教育相談により多数の事例は解消されているもののいじめが原因による不登校の事例も見られ、アンケート調査による実態の把握の他、日常の学校教育の中での早期発見・対応等についての体制の整備・強化、一人ひとりの子どもの状況に応じた対策が必要であろう。加えて、SNSを介したトラブル、ネットいじめ等から児童生徒を守るため、携帯電話やスマートフォンの適切な使用方法等指導の機会を増やすだけでなく、ネットいじめ防止のためのリーフレット作成・配布等を通じ家庭での目配りやルールづくり等保護者の協力も不可欠である。

また、不登校の状況として平成27年度では小学校が8名、中学校53名であり中学校においては前年度より人数の増加が見られる。欠席が連続する、登校をしぼる等の様子が見られる子どもの心身や状況に応じた早期の関わり、校内での別室学習や適応指導教室（ふれあい教室）の通級等、児童・生徒が安心して学ぶことのできる環境を整えること、さらに子どものリズムに合わせた中・長期的な指導、段階的な関わり、関係機関の情報共有が重要である。

いじめ・不登校の未然防止や根絶を図るため教育委員会や学校による定期的な調査

や心理検査は、今後も継続的な実施が望まれる。昨今、学校が直面する児童生徒及び家庭の課題が複雑化していることから、児童生徒の状況に応じて柔軟な人員配置や人的な支援、心の教室相談員等による相談体制の充実とともに、SSW（スクールソーシャルワーク）の視点を取り入れた支援も求められているため、教員や相談員がより学習会や研修会等に参加できるような雰囲気の醸成にも取り組まれない。

3 教育行政推進における主要な施策の実施状況

(1) 文教対策

「教育の日推進事業」については、年度によって事業費の変動が見られるようである。今後もさらに教育に関する関心を高める機会となるよう努めて頂きたい。

「教材教具の整備」については、平成27年度からICT環境の整備を行っており、小学校の全学級に実物投影機を設置していく計画が進められていることから、今後もよりよい教育環境の整備を行って頂きたい。

「教育施設の整備」についても、平成27年度東日本大震災復興特別会計当初予算の活用により、全小中学校について非構造部材耐震改修工事が完了しており防災機能の強化が図られたことについて評価できる。

(2) 社会教育の振興

「成人教育事業」について、各種高齢者教室では、社会の変化に対応した知識等の習得と健康で生きがいのある社会生活を支援し、さらに地域のリーダーの養成及び社会参加を助長する取り組みが行われている。今後は、リーダーとしての活動の様子や学びを活かした取り組み等の実績について、生涯学習まちづくりセミナーの他、地域に積極的に発信していく必要がある。

「文化センター利用状況」については、住民の身近な施設として「利用しやすい施設づくりを目指す」との記述があり、平成27年度は屋外ステージの修繕等施設・設備の整備が行われたことは評価できる。

「図書、視聴覚の振興」については、図書の貸し出し状況は前年度より9,000冊以上増加しており、図書館利用の促進のためイベントの開催等は効果的であったと考えられる。また、学齢期前の子どもに読書の習慣をつけるためのブックスタート事業等は評価できる。今後も保育園や幼稚園への情報提供等を強化し、より多くの子どもの読書活動を推進して頂きたい。

(3) 社会体育の振興

「体力づくり、健康づくりの振興」について、様々な事業が見受けられ、スポーツ教室については、子ども向けの教室で前年度比50%以上増となった教室もある。このような地域のニーズに応じた取り組みを今後も継続的に行って頂きたい。

1 総合評価

平成27年度の教育委員会と事務局の活動は、配布された資料と各担当者からの説明により具体的な施策に基づいて取組を行っており、全体的に概ね良好であったと思われる。

資料は重点的な評価の項目や取組が整理され、分かりやすい内容になっている。また、評価委員の意見にも対応策を講じるなど、外部評価を踏まえた自己評価になっている。

しかし、施策とその施策に対する具体的な指標や目標値などが統一して示されていないので施策の達成状況や改善を目指す今後の方向性が十分に把握出来ない項目もあった。

今後は全体的に点検・評価の様式や観点を整理・統一するなどして、目標設定、実施活動、自己評価、改善というサイクルの検証のもとに施策を進めて頂きたい。

以下、取組に対する点検・評価について意見を付す。

2 教育委員会の活動状況

毎月の教育委員会会議や町内全小・中学校に対して行う学校訪問における授業参観や校長、教頭との意見交換など、その取組に敬意を表す。

今後は教育委員の過度な負担にならない程度に様々な意見交換会などを開催して児童生徒、保護者、教職員、地域住民などの声を聴くと共に意見収集の方法も工夫し、それらの意見を反映した教育行政を執行して頂きたい。また、広報機能のより一層の充実に努め、教育委員会の方針や活動などが町民に分かりやすく周知出来るようにして頂きたい。

3 重点的な評価

(1) 確かな学力の向上

児童生徒の学力の現状と課題は、全国学力・学習状況調査結果の分析と検証から把握出来る。児童・生徒質問紙の項目については、その結果をグラフ化して示すなど、大変分かりやすい。また、支援員や加配教員を計画的に配置するなど、個に応じた指導や少人数指導を充実させるための計画的な取組に敬意を表す。

しかし、学力向上を目指す教育委員会や学校などの主な取組は示されているが、その取組の結果が把握出来ない項目がある。取組の項目を整理すると共に、項目毎に取組結果を評価し、今後の目標や方向性が示されるように検討して頂きたい。

学力向上の大きな要因の一つは、教員の授業力向上にあると思われる。各小・中学校では1時間の指導過程を大切にすると共に分かる授業づくりを目指し、授業内容の質的な改善に取り組む必要があると思われる。各小・中学校が課題を明確にして学力向上に取り組むように支援並びに具体的且つ継続的な指導・助言をして頂きたい。

(2) 健やかな体の育成

体力の現状は、全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果データから把握出来るが、現状の分析や検証内容が把握出来ない。点検・評価の結果については、分かりやすく公表するという視点から、健やかな体の育成の現状と課題などとして掲載するのが適当と思われる。分析する年度の関係で掲載出来ないとのことであるが、その旨の注釈を付けるなどの工夫をして掲載するように検討して頂きたい。

体力づくりや食に関する年間指導計画の作成に当たっては、実効性があり、具体的な取組内容になるように各学校に対して指導・助言する必要がある。また、町内の小・中学校に発令している栄養教諭については、勤務校での指導は勿論のこと、学校間での連携の重要性を踏まえて、勤務校外の小・中学校でも計画的に活用出来るように検討して頂きたい。

少年団活動や部活動に関わっている教員や外部指導者は、多くの時間をその指導に費やしていると思われる。加えて、精神的、肉体的な負担も大きいものと推察出来る。このことは長年の課題であるが、有効な解決手段がなく現在に至っていると思われる。指導者の負担を軽減する人的支援を含め、根本的な解決に向けた取組を期待する。

(3) 豊かな心の育成

「音更町いじめ防止基本方針」の趣旨を各小・中学校に定期的に周知徹底し、いじめや不登校を未然に防止する具体的な取組が必要である。特に、携帯電話やスマートフォンなどの使用に当たっては、善悪を判断して言動するように道徳教育や情報モラル教育などを充実させると共に学校、家庭、地域社会及び関連機関が連携して取り組む必要がある。

中学校において、不登校の生徒が増加傾向にあるとのことで関係者が対応に苦慮していることが推察出来る。不登校の児童生徒を解消する取組は勿論重要なことであるが、まずは不登校の児童生徒への毎日の対応策を講じることが必要と思われる。特に、別室で指導しなければならない児童生徒がいる学校では、指導に関わる教員の負担増となり、他の児童生徒に対する指導にも影響を与えることが危惧される。各学校の実情を把握し、人的支援などを更に充実させて頂きたい。

道徳が特別な教科として教育課程に位置付けられようとしている。その趣旨を事前に各学校に周知徹底すると共に道徳の時間の指導が適切な年間指導計画に基づいて更に充実するように指導・助言する必要がある。

4 教育行政推進における主要な施策の実施状況

施策、成果(指標)、教育委員会の点検・評価が一覧表になって示されているので、大変分かりやすい。前年度までと共通の施策については、前年度との比較も容易に出来る。また、課題のある施策については、今後の方向性が示されているのでその取組と成果を期待する。

(1) 文教対策

平成21年度から実施している「校内研修実践指定校事業」は、各小・中学校の教員の研修意欲を高めるためにも効果的な取組と思われるので継続して頂きたい。6校において実施しているとのことであるが、その取組を検証すると共に町内の全ての小・中学校が順次、指定を受けて実践出来るようなシステムも検討して頂きたい。

おとふけ「教育を考える日」の取組には、多くの実行委員や関係者が関わっていると思われ、そのご尽力に敬意を表す。27年度の記念フェスタへの参加者は、前年度よりも減少しているとのことである。記念フェスタを実施してから数年が経過しているので、趣旨や実施内容などについて再度検討し、更なる内容の充実に努めて頂きたい。

ハイパーQ Uアンケートは、いじめ等の早期発見に効果を上げているとのことである。特に、多感な小学校中・高学年の児童や中学生の内面的な心情を把握するために適切な手段の一つと考えられるので今後も是非継続して実施し、いじめや不登校の未然防止に取り組んで頂きたい。

(2) 社会教育の振興

青少年教育事業において、体験的な活動に参加する青少年の数が減少傾向にあり、事業を推進する関係者は多くの苦勞をしているものと思われる。近年、人間関係の希薄化が指摘される中、事業への参加者の減少は多くの組織が抱える課題でもありと言われている。関係者は人と関わる体験的な活動を小・中学生の時期から学校内外で経験させ、継続して将来の豊かな人間関係の構築に繋がるような施策を検討して頂きたい。

芸術鑑賞事業では主催・共催の事業を増やしたことから鑑賞者数が前年度に比べ大幅に増加している。改善策が功を奏した事例と思われる。今後も各種事業の実施状況を分析・検証し、効果的な改善策を講じることを期待する。

大規模小学校の全学級を対象とした学級文庫は大変好評とのことである。学級の中で授業中や休み時間などに手軽に読書や調べ学習が出来ることもその要因の一つと思われる。今後は学校の要望も聴き、多くの学級において学級文庫が日常的に活用出来るように更なる工夫をして頂きたい。また、可能な限り図書館の司書と各小・中学校の担当者が計画的に協議し、「子ども読書活動推進計画(第2期)」の趣旨を踏まえた読書活動を推進して頂きたい。